

A メジロホオズキ ナス科

2009	
2017	A
2023	A

Lucianthus biflora (Lour.) Bitter

【種の特性】 中型の多年生草本。茎は高さ 60 ～ 90cm、軟毛が密に生える。葉は卵形から狭卵形。萼は 10 裂する。花冠は、白色で、皿形。液果は赤熟する。虫媒で、鳥散布。花期は、6 月～ 10 月。海近くの林縁に生育する。[H]

【分布】 本州、四国、九州。

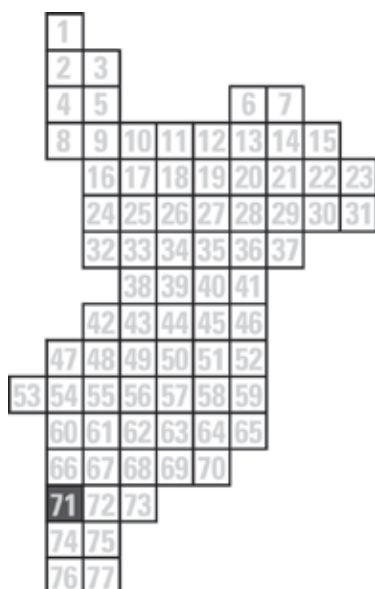
【県内の状況】 南房総市で、2011 年 10 月 4 日に採集された標本が記録されている。

【保護対策】 生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】 川崎一 2012 千植誌資料 27:267-268 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 36

【写真】 1974.12.19 三重県 標本 : CBM BS-205525

(天野誠)



A ヤマホオズキ ナス科

2009	A
2017	A
2023	A

Physalis chamaesarachodea Makino

【種の特性】 中形の夏緑多年生草本。茎は高さ 30 ～ 60 cm、上部で横に枝を張り広がる。葉は互生。単葉で粗い歯牙がある。花は 8 ～ 10 月に咲き白色で下垂。果実は紅橙色に熟し、萼は果実時にホオズキ状にふくらみ、脈が翼状になって粗い歯牙がある。

[H] 虫媒で鳥散布。

【分布】 本州（関東以西）四国・九州。

【県内の状況】 房総丘陵に知られているが、極めて稀である。沢沿いの湿って肥沃な林床あるいは林縁に生える。

【保護対策】 自生環境を湿った肥沃な環境を保つ。

【文献】 久内清孝 1935 やまほずき安房二産入。植物研究雑誌 11 : 145-146. / 千植誌 2003 : 514,521

【写真】 君津市 大場達之

(大場達之/天野誠)



A オニルリソウ ムラサキ科

2009	B
2017	A
2023	A

Cynoglossum asperrium Nakai

【種の特性】 高さ約 50 ～ 100 cm の夏緑の二年生草本。日陰から半日陰の林縁などに生える。根は長倒円錐形。茎は円筒形で、開出する剛毛が生える。上部で枝分かれする。葉は互生、長楕円形で、鋭頭、基部は楔形、やや薄く、両面に荒い毛が生える。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は水色、花筒は短い、径 3 ～ 4 mm で、喉部に白色の鱗片状突起がつく。果実は楕円球で、表面に鉤状に刺が生え、1 花に 4 つつく。虫媒で付着散布。[Th] ヨモギ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

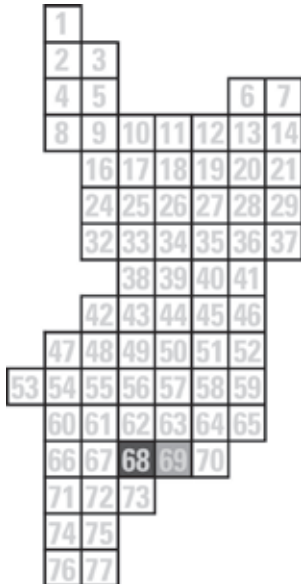
【県内の状況】 清澄山からの記録があるのみである。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：380. / 千植誌 2003：483,472

【写真】 1937.8.15 鴨川市 標本: CBM BS-178518

(大場達之/天野 誠 追補)



A オオルリソウ ムラサキ科

2009	B
2017	X
2023	A

Cynoglossum zeylanicum (Vahl) Thunb.

【種の特性】 高さ約 50 ～ 100cm の夏緑の二年生草本。日陰から半日陰の林縁などに生える。根は長倒円錐形。茎は円筒形で、伏毛が生える。上部で枝分かれする。葉は互生、長楕円形で、鋭頭、基部は楔形、やや厚く、両面に荒い毛が生える。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は水色、花筒は短い、径 3 ～ 4 mm で、喉部に白色の鱗片状突起がつく。果実は楕円球で、表面に鉤状の刺が生え、1 花に 4 つつく。虫媒で付着散布。ヨモギ群綱。[Th]

【分布】 本州・四国。

【県内の状況】 清澄山と船橋市の標本がある。また奥山（1963）には山武市の写真があり、その標本が国立科学博物館に収蔵されている。

【保護対策】 路傍などに偶生的に生えるものなので保護は難しい。

【文献】 奥山春季 1963 原色野外植物図譜 7：563 / 新千植誌 1975：371 / 千植誌 2003：483,472

【写真】 1986 神奈川県 大場達之 (大場達之/天野 誠 追補)



A モリアザミ キク科

2009	A
2017	A
2023	A

Cirsium discolepis (Maxim.) Matsum.

【種の特性】中～大形の夏緑多年草。根は太くゴボウ状。茎は直立して高さ 50～100cm。根生葉は倒卵状楕円形で羽状に裂け、花時に枯れている。花は 9～10 月に上向きに咲く。筒状花は紅紫色。瘦果は黒紫色で先端のみ黄白色。虫媒で風散布。やや乾いた草原や明るい林に生える。(H).

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】市原市と東金市での記録があるのみである。

【保護対策】自然的なススキ草原を保全する。市原市での産地は雑木林を伐採した跡地で、埋土種子から復活したと考えられる。

【文献】平田和宏 2000 モリアザミー若い植林地を探してみようー. 千資料 15: 107-108 / 千植誌 2003: 578, 569

【写真】1998. 市原市 平田和弘

(大場達之／天野誠)



A ハマアザミ キク科

2009	B
2017	A
2023	A

Cirsium maritimum Makino

【種の特性】中形～やや大形の夏緑多年草。茎は根際から分かれて地表を這う。葉は羽状に深裂し波曲する。花は 8～9 月、上向きに咲き紅紫色。総苞は長さ 25mm ほど。虫媒で海流散布。[H] ハマアザミ群集。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】鴨川市と館山市に知られているが、いずれも偶生的で、数年で波に洗われて消滅することが多い。

【保護対策】自然の砂浜あるいは礫浜の自然を保全する。

【文献】吉川代之助 1964 ハマアザミ房州に上陸。植物採集ニュース 14: 13 / 斉藤吉永 1971 房州のハマアザミと千葉付近のウラギク. 千生誌 20: 73 / 千植誌 2003: 577, 568

【写真】2004.11.13 鴨川市 福田洋

(大場達之／天野誠)



A イズハハコ キク科

2009	A
2017	X
2023	A

Conyza japonica (Thunb.) Less.

【種の特性】 一～二年生草本。葉は単葉で互生し白い蜘蛛毛があり、株は灰色に見える。虫媒で風散布。全体に柔らかい毛が多い。シイ・カシ帯の日当たりの良い乾いた崖などに生え、かつては林道の法面などにも見られた。[Th]。別名ワタナ。

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】 我孫子市、長生村、南房総市、鴨川市などから報告されているが、どこでも個体数は少なく、1979年を最後として近年の報告はない。絶滅した可能性もある。遷移途中相に現れる傾向があるので保全は難しい。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。林道法面などの過度の牧草などによる緑化を控える。

【文献】 新千植誌 1975：356 / 千植誌 2003：593, 583

【写真】 2004. 中国四川省 大場達之
(大場達之／天野誠)



A アズマギク キク科

2009	A
2017	A
2023	A

Erigeron thunbergii A.Gray

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。銚子の海岸に見られるアズマギクは花序の葉が幅広く基部は茎を抱き、内陸平地のものと異なった形をしている（仮にハマアズマギクと呼んでおく）。しかし本州中部のブナ帯の草地にも同じような形のアズマギクが見られるので今後の研究が必要である。シバ草原に生える。シバスケ群目。[H]

【分布】 本州（関東、中部以北）。

【県内の状況】 内陸の草地と海岸の岩場周辺に見られたが、半自然の草地の管理が放棄されたために激減している。県内における最も古い記録は1882年6月16日、松戸市での標本で東京大学に収蔵されている（採集者不明）。

【保護対策】 生育する草地を保全することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：357 / 千植誌 2003：596, 583

【写真】 2002. 銚子市 木村陽子
(大場達之／天野誠)



A オタカラコウ キク科

2009	A
2017	A
2023	A

Ligularia fischeri (Ledeb.) Turcz.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生し、腎心形で長さ 30 cm 以上になり、縁には鋸歯がある。花茎は高さ 1～2m で上部に多数の花をつけるが、千葉県では高さ 1m 程度である。頭花は 5～9 個の黄色い舌状花がある。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。湧水池周辺などの湿った草地に生える。

オオバセンキュウータネツケバナ属群団。[HH]

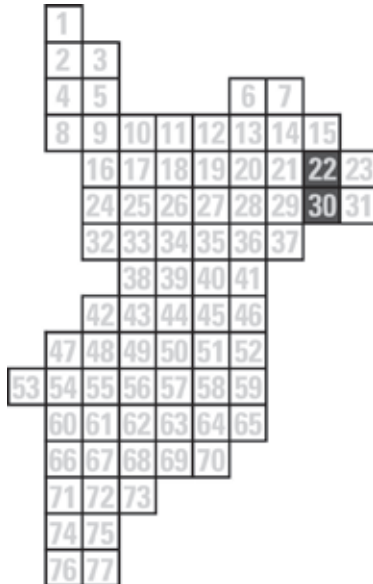
【分布】本州・四国・九州。中国、朝鮮、サハリン、アムール、ウスリー、東シベリア。

【県内の状況】旭市にわずかに見られる。

【保護対策】湧水池の環境を保護し、立ち入りを禁止する。採集を禁止する。

【文献】岩瀬徹 1975 海上町竜福寺の森観察会 (246 例会)、千葉生物誌 25(1): 49-51 / 千植誌 2003: 601, 605

【写真】2004. 旭市 大場達之
(大場達之/天野誠)



A ウスゲタマブキ キク科

2009	
2017	A
2023	A

Parasenecio farfarifolius (Siebold & Zucc.) H.Koyama

【種の特性】大型の多年性草本。高さ 50～140cm。茎は直立し、分枝しない。葉は、幅に広い五角形で、心形で互生する。長い円錐形の花序に花は下向きに付く。総苞片は 5 枚、小花は 5・6 個。虫媒で、風散布。花期は、8 月から 10 月。夏緑林の林床に生育する。[G]

【分布】本州・四国・九州

【県内の状況】東金市で、1996 年 10 月 15 日に採集された標本がある。1998 年 12 月 2 日に再度確認されている。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】内野秀重 2000 千植誌資料 15 111-112

【写真】2008.10.19 栃木県 標本
CBM BS-338048

(天野誠)



A ミヤコアザミ キク科

2009	X
2017	A
2023	A

Saussurea maximowiczii Herder

【種の特性】大形の多年生草本。茎は直立し、上部で枝を分かち。高さ 60～150cm。葉は単葉で羽状に裂け互生。花は秋に咲き紅紫色。虫媒で風散布。ススキ群綱。[H]

【分布】本州・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

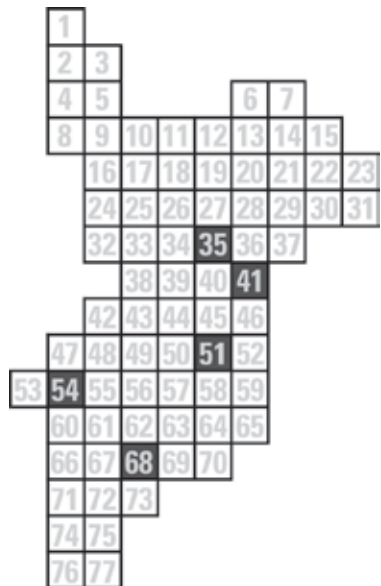
【県内の状況】草刈りが定期的に行われるススキ草原に生えるが、よく管理された草地の減少と共に、最近は極めて少なくなり、採集記録のあるのは嶺岡山、八街市、東金市と長生村である。2014 年に長生村で発見されている。遺存牧野要素。

【保護対策】刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：574, 567

【写真】1933.9.14 山武市 標本：CBM BS-81

(大場達之／天野誠 追補)



A サワギク キク科

2009	B
2017	A
2023	A

Senecio nikoensis Miq.

【種の特性】柔らかい多年生草本で茎は中空。茎は高さ 40～100cm。葉は単葉で互生、羽状に深裂する。虫媒で風散布。花は 7～8 月に咲き、茎の先端に散房状の花序を成した、多数の頭花をつける。舌状花は黄色。冠毛は長さ 1cm あって白色で目立つ。ブナ帯の湿った林や日陰の林縁に生える。低地遺存ブナ帯要素。[H] 別名ボロギク。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】清澄山～三石山付近から少数の採集例があるが稀である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：602, 606

【写真】1982 長野県 大場達之
(大場達之／天野誠)



A オナモミ キク科

Xanthium stumarium L. subsp. *sibiricum* (Patrin & Widder) Greugter

2009	
2017	A
2023	A

【種の特性】 中型の一年生草本。高さ 20 ～ 100m に達する。茎は、分枝する。葉は、丸みのある三角形で、浅く 3 裂し、不規則な鋸歯がある。筒状花は小さく、白色。偽果実は、楕円球で、長さ 9 ～ 14mm。表面の棘は 1 ～ 2mm。先端の 2 本の棘は他と比べて大きい。風媒で、動物外散布。花期は、8 月～ 10 月。道端や空き地に生育する。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。

【県内の状況】 県内各地に普通に見られたが、1990 年代を境に急速に目撃、採集されなくなった。千葉市で 1990 年 10 月 16 日に採集された標本 (CBM BS-99516) は、以前の標本と同じ形の偽果を付けているが、袖ヶ浦市で 1995 年 11 月 11 日に採集された標本 (CBM BS-186842) と

同市で 1995 年 11 月 5 日に採集された標本 (CBM BS-186332)、一宮町で 1991 年 11 月 21 日に採集された標本 (CBM BS-375106) は、果実が長く、従来の形と異なる。また、大網白里市で 2007 年 5 月 15 日に採集された標本 (CBM BS-263009) は、先端の棘が短く、従来の形と異なる。典型的な偽果の標本は、1990 年を境に見られなくなった。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:319 / 新千植誌 1975:364 / 千植誌 2003:573

【写真】 1990.10.16 千葉市 標本: CBM BS-33516

(天野誠)



A ソバナ キキョウ科

Adenophora remotiflora (Siebold & Zucc.) Miq.

2009	A
2017	A
2023	A

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で先は長く尖り、互生。上葉を除いて明らかな柄がある。花は杯状鐘形。虫媒で風散布。日陰の林縁に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 県内の記録は非常に少ない。市原市 (1991.11.15 CBM BS-44724) と市原市 (1992.9.15 CBM BS-46740) の標本がある。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 561, 555

【写真】 2008.8.23 長野県

谷城勝弘

(大場達之/谷城勝弘 追補)



A ツルギキョウ キキョウ科

2009	A
2017	A
2023	A

Campanumoea javanica Blume var. *japonica* (Maxim.) Makino

【種の特性】 多年生つる草本。根は白色、多肉で分岐する。葉は単葉で対生と互生があり、裏面は粉白を帯びる。8月～11月にかけて葉腋に1個の花が咲く。花冠は柄があって下垂する。虫媒で風散布。[G]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】 市原市と睦沢町に分布が知られる。最近睦沢町で再確認された。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持し、個体を保護することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：560,555

【写真】 2005.10.1 & 04.10.2 睦沢町 谷城勝弘

(谷城勝弘)



A ヒメシロアサザ ミツガシワ科

2009	A
2017	A
2023	A

Nymphoides coreana (H.Lév.) H.Hara

【種の特性】 浮葉性の水生多年草。地中に多数の太い根を出して固着し、細い茎を水中に伸ばして節から根と、数枚の葉と、多数花を出す。葉は卵心形で長い柄があり、下面は紫色を帯びる。花は7～10月に咲き、花冠は白色で4または5裂し、径8mm、裂片の下部は縁が深く裂ける。閉鎖花は冬までつける。ガガブタに似るが葉は小形で、花冠の裂片の縁に毛状の裂片がある点異なる。ガガブタの花は裂片の上面に毛がある。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部、プリモリア。

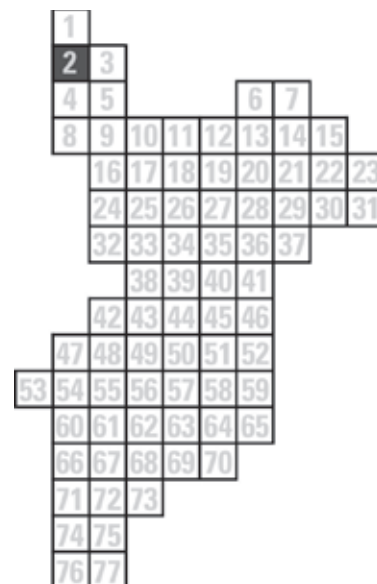
【県内の状況】 2005年に野田市の水田用水池で発見された。

【保護対策】 生育地周辺での除草剤などの使用を控える。

【文献】 大場富士夫 2006 野田市（旧関宿町）中戸でヒメシロアサザ発見 千植資料 21：165-167

【写真】 2005 野田市 大場富士夫

(大場達之／天野誠)



A ドクゼリ セリ科

Cicuta virosa L.

2009	
2017	A
2023	A

【種の特性】大型の多年生草本。高さ1mに達する。根茎は太く、節間に隙間がある。茎は分枝し、先端に花序を付ける。葉は、2から3回複葉で、小葉は披針形で鋭い鋸歯がある。花序は基部で、小花序に分かれ、長い小花序枝の先に散形に花を付ける。果実は、2つ合わせて球形になり、幅2mm。虫媒で、重力散布。花期は、5月から8月。湿地に生育する。ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。[H～HH]

【分布】北海道・本州・九州。ユーラシア。

【県内の状況】東金市で1956年9月16日に採集された標本（CBM BS-7581）と成田市で1994年5月18日に採集された標本（CBM BS-138571）と多古町で2004年6月6日に採集された標本（CBM BS-267565）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:345 / 新千植誌 1975:390 / 千植誌 2003:425 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 393

【写真】1994.5.11 成田市 標本: CBM BS-139572

(天野誠)



A ヤマゼリ セリ科

Ostericum sieboldii (Miq.) Nakai

2009	C
2017	A
2023	A

【種の特性】夏緑性の多年生草本。茎は高さ50～80cm。葉は2～3回3出複葉。花は8～10月に咲き、大型の散形花序に白い花を密につける。果実は楕円形。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国

【県内の状況】2007年に野田市で発見された。それまで千葉県からヤマゼリの報告はあったが、確認できた限りではそれらはカノツメソウなどの誤認であった。神奈川県などでは丹沢などの山麓の湿った林縁などに普通に見られる。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003: 428,417 / 土屋守 2008. 野田市にヤマゼリが産する. 千植資料 24: 224-225

【写真】2010.11.7 野田市 CBM BS-353260
(大場達之/天野誠 追捕)



A シムラニンジン セリ科

2009	A
2017	A
2023	A

Pterygopleurum neurophyllum (Maxim.) Kitag.

【種の特性】中形の多年生草本。茎は高さ 80～120cm。葉は 3 出複葉、羽状複葉で互生。虫媒で水散布。花は 5～6 月。果実は 6～8 月に熟す。

ほかの草にやや寄りかかって直立し、茎の上部でやや枝分かれをする。長く持続した自然で構成種数の多いオギ群落にのみ見られ、新しく再生したオギ群落には見られない。大きな河川の下流域の氾濫原で年に数回は洪水の冠水するやや湿った草原。九州では山地の湿った草原に生える。ハナムグラ-オギ群落。[G]

【分布】本州（関東地方：利根川、荒川の下流域）・九州。朝鮮。

【県内の状況】最初、市川市で採集されたが絶滅。1995 年に香取市で発見された。極めて個体数が少なく、生育環境も狭いので絶滅する恐れが高い。

【保護対策】生育地への立ち入りを避けるとともに、草刈りにあたって十分留意する。採取をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：391 / 千植誌 2003：426, 415

【写真】1995 佐原市 大場達之
(大場達之 / 天野誠)



A オオツクバネウツギ スイカズラ科

2009	
2017	A
2023	A

Abelia tetrasepala (Koidz.) H.Hara & S.Kuros.

【種の特性】小型の低木。茎は高さ 2～3m、枝は白い髄がある。葉は広卵形から披針状卵形。花は花柄の先に 2 つ付く。萼片は 5 つのうち 1 つが小さい花冠は、ツクバネウツギより大きい。虫媒で、鳥散布。花期は、4 月～6 月。林縁に生育する。[N]

【分布】本州、四国、九州。

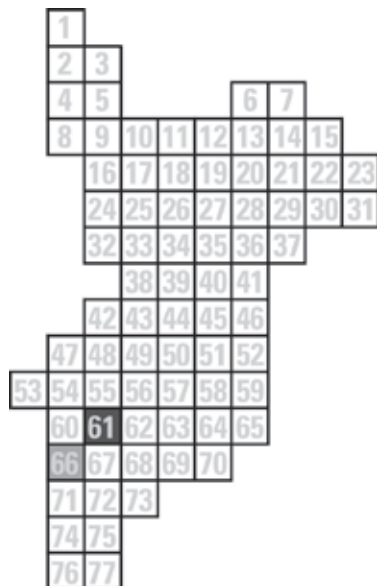
【県内の状況】富津市で 1971 年 4 月に採集された標本 (CBM BS-182782) と鋸南町で 1961 年 11 月 23 日に採集された標本 (CBM BS-191195) がある。

【保護対策】生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 321 / 新千植誌 1975 366 / 千植誌 2003 557 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 415

【写真】2009.5.26 成田市 谷城勝弘

(天野誠)



A ミヤマウグイスカグラ スイカズラ科

2009	D
2017	A
2023	A

Lonicera gracilipes Miq. var. *glandulosa* Maxim.

【種の特性】落葉低木。高さ1～2m。枝は中実。腺毛が多い。葉は卵形から、縁に鈍鋸歯がある。花は、通常1花で薄紅色。小苞は、小さく目立たない。花冠は漏斗状で5裂する。果実は、赤色。虫媒で、動物散布。林に生育する。ブナ群綱。[N]

【分布】本州、四国、九州。

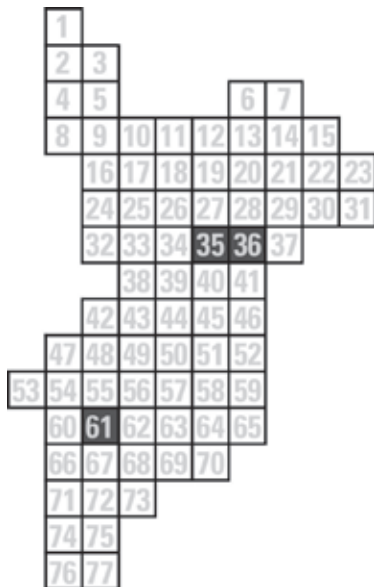
【県内の状況】山武市で1929年7月7日に採集された標本（CBM BS-25556）と同市で1933年4月25日に採集された標本（CBM BS-136）と富津市で2013年5月19日に採集された標本（CBM BS-294251）がある。

【保護対策】生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 558 /改訂新版日本の野生植物 3 2016 81

【写真】1929.7.7 山武市 標本: CBM BS-025550

(天野誠)



A キンギンボク スイカズラ科

2009	
2017	A
2023	A

Lonicera morrowii A.Gray

【種の特性】小型の低木。茎は高さ1～2m、枝は中空になる。葉は広楕円形から狭楕円形。花は花柄の先に2つ付く。花冠は、ほぼ相称性。果実は離れ、赤熟する。虫媒で、鳥散布。花期は、4月～6月。林縁に生育する。[N]

【分布】北海道、本州。

【県内の状況】南房総市で1991年4月18日に採集された標本（CBM BS-235309）と、市原市で1992年6月19日に採集された標本（CBM BS-37546）と、館山市で2010年4月23日に採集された標本（CBM BS-371543）がある。

【保護対策】生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 558 /改訂新版日本の野生植物 5 2017 418

【写真】1992.6.19 市原市 標本: CBM BS-37546

(天野誠)



A ナベナ マツムシソウ科

2009	B
2017	X
2023	A

Dipsacus japonicus Miq.

【種の特性】大形の2年草。乾いた日当たりのよい林縁、礫の多い斜面などに生える先駆的植物で林道脇などに見られることが多い。茎は直立して高さ1.5m以上になり、茎には棘がある。葉は対生し羽状に裂ける。花は8～10月。長い枝の先に頭状花序をつけ花被は紅紫色。[Th]

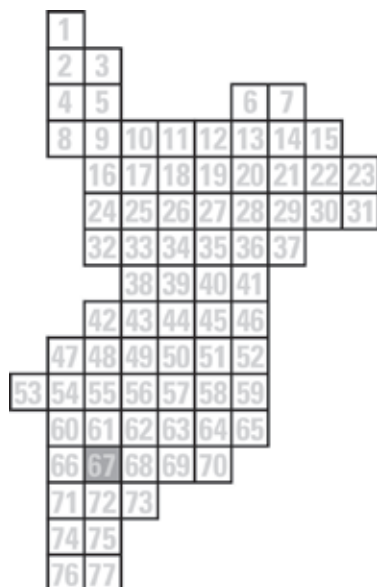
【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】印西市と南房総市で採集されたことがあるのみで近年は記録を見ない。

【保護対策】すでに30年以上報告がないので、自生を確認する必要がある。

【文献】千植誌 2003：560, 554

【写真】1982 長野県 大場達之
(大場達之／天野誠)



B コウホネ スイレン科

2009	B
2017	B
2023	B

Nuphar japonicum DC.

【種の特性】多年生の中～大型草本。地下に太く灰白色の地下茎があり、河骨の名がついた。葉は根生し単葉で対生、水中の葉は薄く全体に波曲している、空中葉は長卵形で著しい光沢があり、下面には幼葉が縦に巻いていた時の名残が印されている。花は6～9月に咲き、地下茎から出た長い直立した柄の先に黄色で直径3～5cm、5弁の花を単生する。虫媒で水散布あるいは鳥散布。[HH]。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】池・沼、流れの遅い川、水田の水路などに多く見られたが、現在では河川改修、圃場整理などによって激減している。

【保護対策】水路などを自然な状態に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 384 / 千植誌 2003 : 202,209

【写真】1999 東京都 大場達之
(大場達之 / 天野誠)



B アブラチャン クスノキ科

2009	C
2017	C
2023	B

Lindera praecox (Siebold & Zucc.) Blume

【種の特性】夏緑性の中高木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[N～M]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】本来ブナ帯に分布の中心のある種類で千葉県では点々と分布が知られる。寒冷期からの依存と考えられる。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 184, 192 / 福田洋 2006 守ろう千葉の植物・扉

【写真】1976.3.25 鴨川市 標本 : CBM BS-381340

(大場達之 / 天野誠)



B バリバリノキ クスノキ科

2009	C
2017	D
2023	B

Litsea acuminata (Blume) Sa.Kurata

【種の特 性】常緑性の中～高木。葉は単葉で互生し狭披針形で長さ 15～25cm で縁は波打つ。花は 8 月に咲き、花被片は脱落する。虫媒で鳥散布。カクレミノースダジイ群目。[MM]

【分 布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵に見られるが、開花するような株は少ない。

【保護対策】自生する照葉樹林を保全する。

【文献】千植誌 2003：184, 192

【写真】2011.8.24 鴨川市 標本：CBM BS-298377

(天野誠)



B イヌガシ クスノキ科

2009	
2017	B
2023	B

Neolitsia acuminata (Blume) Koidz.

【種の特 性】大型の常緑高木。枝はシロダモより、細い。葉は倒卵状楕円形でシロダモより小さく。葉脈は三行脈。花は腋性の芽に付き、花被は暗赤色。ヤブツバキ群綱。[MM]

【分 布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾。

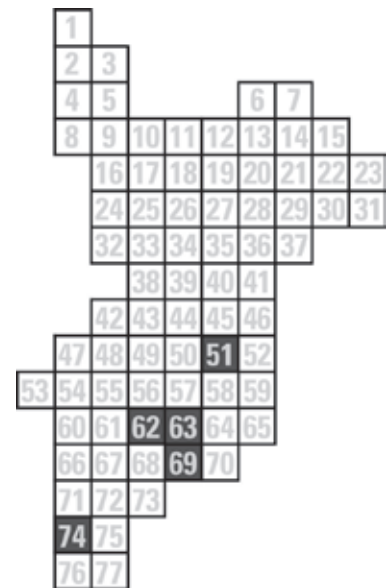
【県内の状況】鴨川市で 1998 年 6 月 24 日に採集された標本 (CBM BS-387858) と君津市で 2012 年 9 月 26 日に採集された標本 (CBM BS-330771) と大多喜町で 1996 年 6 月 13 日に採集された標本 (CBM BS-123003) などがある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 413 / 新千植誌 1975 455
／千県誌 2013 838 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 88

【写真】1988.6.24 鴨川市 標本：CBM BS-387858

(天野誠)



B サジオモダカ オモダカ科

2009	B
2017	B
2023	B

Alisma plantago-aquatica L.

【種の特性】多年生草本。主に北日本の湖沼、ため池、水路などの浅い水域または湿地に生える。単葉で互生。葉柄と葉身は境目が明瞭である。虫媒で水散布。[HH]。ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国。ユーラシア中部・東部、朝鮮、中国。

【県内の状況】県北部台地の谷津、川沿いに複数の記録があるが、近年は確認されないところが多い。八千代市には多産地が現存する。

【保護対策】水辺環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】大野景徳・谷城勝弘 2002 八千代市の植物相とその保護について・八千代市水辺の自然環境調査報告書 53-101 / 千植誌 (2003) : 652,643

【写真】2008.8.31 市川市
谷城勝弘

(谷城勝弘)



B アギナシ オモダカ科

2009	C
2017	C
2023	B

Sagittaria aginashi (Makino) Makino

【種の特性】抽水性～湿性の多年生草本。湖沼、ため池、湿地などに生育する。オモダカに似るがやや高標高の池沼の水辺など攪乱の少ない安定した環境に生えることが多い。葉の側裂片先端はやや丸みを帯びる。夏の終わり頃から葉柄基部に多数の小球茎(むかご)を形成する。ヨシ群綱。[HH]

【分布】北海道、本州、四国、九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内全域に記録が点在する。記録中には本種によく似たホソバオモダカ f. *longiloba* Makino を誤同定したものが含まれる可能性がある。

【保護対策】自然的な湿地を保存する。

【文献】千植誌 2003:653

【写真】2014.8.26 千葉市 CBM BS-366520

(谷城勝弘)



B ミミガタテンナンショウ サトイモ科

2009	A
2017	A
2023	B

Arisaema limbatum Nakai & F.Maek. ex F.Maek.

【種の特性】中～やや大型の多年性草本。葉は鳥足状複葉で互生。花は3月。全体にヒガンマムシグサに似るが、総苞は濃褐紫色で、内面に光沢があり、総苞口部の耳状の反曲は大きい。虫媒で鳥散布。[G]

【分布】本州・四国。

【県内の状況】銚子市にのみ分布が知られる。古いスギ植林と照葉樹などの2次林に見られる。関東から東南北部にかけての太平洋側の低山地～山地には普通であるが千葉県では南部にヒガンマムシグサが圧倒的に多く、銚子市とヒガンマムシグサの分布圏の間には、このミミガタテンナンショウ類が発見されていない。

【保護対策】生育地を保全する。また銚子市猿田丘陵など利根川沿岸の丘陵には更に分布している可能性があるので精査が必要である。

【文献】千植誌 2003 : 811, 799

【写真】2012.4.15 銚子市 谷城勝弘
(大場達之／天野誠)



B コウキクサ サトイモ科

2009	
2017	B
2023	B

Lemna minor L.

【種の特性】小型の多年性草本で浮漂植物。葉状体のまま、越冬する。根の鞘に翼はない。根は1本で、根冠は鈍頭。葉状体は緑色、ほぼ左右相称で、円形から広卵形。花期は、6月から8月。水媒で、重力散布。池や溝に生育する。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球の温帯。

【県内の状況】千葉市などに生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975:454 / 千植誌 2013:813 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 108

【写真】2019.6.25 千葉市 標本: CBM BS-411767

(天野誠)



B ムサシモ トチカガミ科

2009	B
2017	A
2023	B

Najas ancistrocarpa A.Br.

【種の特性】一年生草本の沈水植物。茎はよく分岐する。種子は曲がり、表面に縦に長い網目模様がある。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国。

【県内の状況】印旛沼、手賀沼畔での次の採集記録がある。成田市（1985.9.12 CBM BS-79889）、印旛沼（1985.9.14 CBM BS-83779）、柏市（2002.8.26 CBM BS-190859）。2008年には印旛沼畔の実験地で発生が確認された。本種の種子は横芝光町などからもみつかり、かつては県内の広い範囲に生育していたことが推察される。

【保護対策】埋土種子からの発生を促し、生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：671,665

【写真】2008.11.24 成田市

谷城勝弘

（谷城勝弘）



B ホッスモ トチカガミ科

2009	B
2017	B
2023	B

Najas graminea Delile

【種の特性】一年生草本の沈水植物。ムサシモに似るが葉鞘の先が耳状に著しく突き出て尖る。種子は曲がらない。ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。世界の温帯～熱帯。

【県内の状況】県内各地のため池や湿地の水溜りに採集記録がある。山武市（2005.8.12 CBM BS-274145）や千葉市（2007.8.25 CBM BS-343698）では水田で確認されている。農業が多用され乾田化の進む以前には県内各地の水田（湿田）に生育していたものと推察される。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：

671,665

【写真】2007.9.18 千葉市 谷城勝弘

（谷城勝弘）



B イトリゲモ トチカガミ科

2009	B
2017	B
2023	B

Najas japonica Nakai

【種の特性】水田、池沼、ため池などに生える一年生の沈水植物。葉身は糸状で1節から5葉を生じることがあり、種子は各節に2個つく。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】富津市（1997.10.31 CBM BS-154770）、成田市（1999.10.28 CBM BS-363395）、横芝光町（2007.8.30 CBM BS-363395）の標本がある。横芝光町では造成地の埋土種子からの発生であった。かつては各地に生育していたと思われるが、土地の改変や環境の変化によって激減したと推察される。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：670,665

【写真】2007.7.31 横芝光町 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B イバラモ トチカガミ科

2009	A
2017	A
2023	B

Najas marina L.

【種の特性】一年生の沈水植物。植物体は剛直で厚みがある。葉は幅2～3mmで鋸歯は顕著。ヒツジグサ群団。[HH]

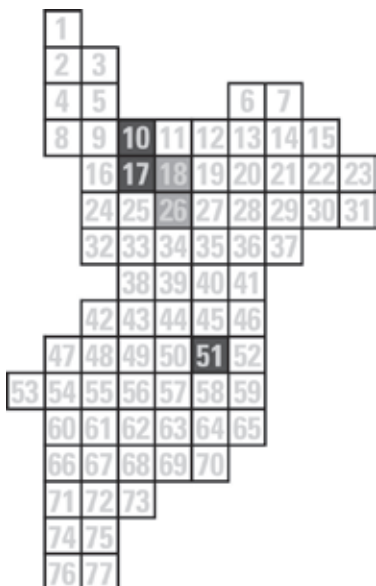
【分布】北海道、本州、四国、九州、奄美大島。世界の温帯～熱帯。

【県内の状況】印旛沼と手賀沼に記録があり、佐倉市（1964.9.6 CBM BS-12732）などの標本がある。印旛沼では1980年代まで生育が確認された。手賀沼畔の実験堀で埋土種子から発生が確認された。標本が得られている（2002.8.26 CBM BS-190875）。2008年に印旛沼の実験堀でも発生が確認された。

【保護対策】埋土種子からの発生を促し、生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：670,664

【写真】1964.9.6 酒々井町 標本：CBM BS-194578
(谷城勝弘)



B オオトリゲモ トチカガミ科

2009	B
2017	B
2023	B

Najas oguraensis Miki

【種の特性】 池沼、ため池などの生える一年生草本の沈水植物。植物体は硬く、葉は2～4cmで外側に反り返る。雄ずいの葯は4室。通常は水深が20～40cmの場所に生育する。[HH]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 袖ヶ浦市、東金市、手賀沼（1997.8.31 CBM BS-363395）、印旛沼（2001.8.12 CBM）での採集記録がある。袖ヶ浦市、東金市の生育地は後に消滅した。印旛沼の実験池には現在も多く生育する。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：671,665

【写真】 2007.9.18 成田市 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B コウガイモ トチカガミ科

2009	B
2017	B
2023	B

Vallisneria denseserrulata (Makino) Makino

【種の特性】 沈水性の多年生草本。池・沼、水路等の底に生える。地下茎には小さな棘がありざらつく。秋に地下茎の先に細長いイモ状の殖芽をつける。葉は単葉ですべて根生し、長さ10～60cm、幅5～15mmで葉縁には鋭い小鋸歯がある。風媒で水散布。沈水葉は線形で、長10～20cm、幅3～9mm。花は9～10月に咲く。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】 本州・九州。中国。

【県内の状況】 印旛沼、手賀沼のほか東金市、香取市、松戸市などで記録されているが、印旛沼などでは湖水の透明度低下のため見られなくなっている。しかし印旛沼周辺に造られた養魚場などには多量に生育しているところがある。

【保護対策】 ため池や水路の汚濁をなくし、生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 432 / 新千植誌 1975 476 / 千植誌 2003 655,661

【写真】 2002.8.14 松戸市 大場達之
(大場達之/天野誠)



B ガシャモク ヒルムシロ科

2009	B
2017	A
2023	B

Potamogeton dentatus Hagstr.

【種の特性】沈水性の多年生草本。湖沼、ため池等に生える。葉は単葉で互生～対生。ササバモに似るが、葉柄がほとんどない。陸生葉は作らない。風媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】本州（関東、滋賀）・北九州。中国。

【県内の状況】手賀沼、印旛沼にはかつて緑肥に利用するほど多産したというが、両沼内では近年の急激な汚濁の進行によって絶滅した。沼周辺での工事や実験池に埋土種子による生育が確認されることがある。2002年に手賀川高水敷に掘られた実験池ではガシャモクの他、インバモ、ササバモ、ムサシモ、イバラモ、コウガイモなど沈水性の水草が多数発生し、かつての手賀沼の豊かな水生植物相を偲ばせるものとなった。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：432／大滝末男（1975）水生植物の分布と生態。新千植誌：216-232／千植誌 1975：478／齊藤吉永 1991 幻のガシャモクの出現。水草研究会報 43：24-26／林紀男 2005 埋土種子から蘇ったガシャモク マシジミとガシャモクに関する調査研究報告集 5-9／千植誌 2003：669,663

【写真】1997 柏市

谷城勝弘

（谷城勝弘）



B ホソバミズヒキモ ヒルムシロ科

2009	B
2017	B
2023	B

Potamogeton octandrus Poir.

【種の特性】沈水性の多年生草本。ため池や水路等に生える。葉は単葉で互生～対生。沈水葉は線形で、長さ3～5cm、幅0.3～1.0mm、浮葉は長楕円形で明るい黄緑色、長さ1.0cm、幅4～10mm。果実の背稜には突起がない。風媒で水散布。ヒルムシロ群綱。[HH]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、ウスリー。

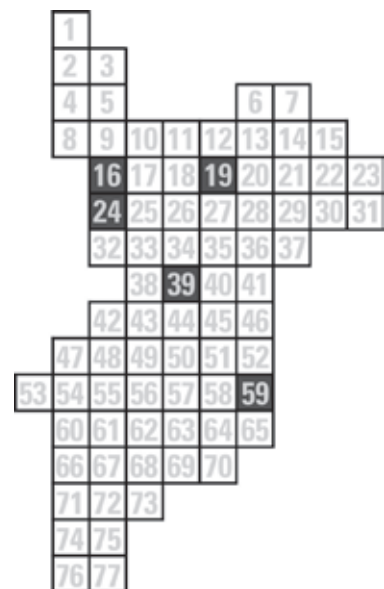
【県内の状況】印旛沼、山武市、長生村、南房総市での標本、記録があるが、近年は確認されていない。水路やため池の植物調査が不十分であるので、生育状況の詳細は今後の精査にまかされる。

【保護対策】ため池や水路の汚濁をなくし、生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：432／新千植誌 1975：479／角野康郎 1994 日本水草図鑑：36／千植誌 2003：664,660

【写真】2009.8.20 いすみ市 谷城勝弘

（谷城勝弘）



B ツツイトモ ヒルムシロ科

2009	A
2017	B
2023	B

Potamogeton panormitanus Biv.

【種の特性】沈水性の繊細な多年生草本。葉は線形で長さ2～5cm、幅0.7～1mm。イトモに似るが托葉の縁は合生して筒状になり、地下茎が伸びる。花は上下2段に分かれてつく。

【分布】本州・四国。ヨーロッパ、北米。

【県内の状況】県内では初め横芝光町で確認された。千葉県立中央博物館の標本を調査したところ1964年に印旛沼で採集されていたことが明らかになった。その後、成田市の実験堀からも埋土種子からの発生が確認された。2007年に印西市で見出されたものはツツヤナギモ *P. × apertus* Miki の可能性が高い。

【保護対策】生育環境を良好に維持し、状況に応じて埋土種子からの再発生を促すことが望ましい。

【文献】千植誌 2003: 660 / 千植写真 2005: 357 / 林紀男・谷城勝弘・浅間茂 2008: 手賀沼流域における水生植物の繁茂状況・千生誌 (58) 1: 1-6

【写真】

2001.5.19 横芝光町
谷城勝弘・市原道雄
(谷城勝弘)



B イトモ ヒルムシロ科

2009	A
2017	B
2023	B

Potamogeton pusillus L.

【種の特性】沈水性の小型の多年生草本。葉は単葉で互生。水媒で水散布。水中茎の断面は楕円形。[HH]

【分布】日本全土。サハリン、朝鮮、台湾、中国、北米、南米など。

【県内の状況】九十九里平野の河川や池沼、印旛沼、手賀沼を中心とする利根川水系から複数の記録がある。河川、水路などの改修と護岸整備、沼の汚濁の進行等によって生育可能な環境が失われ、現存する生育地は極めて少ない。近年、印西市と成田市で確認された。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を良好に維持することが望ましい。現生育地は保全の努力をすることが望ましい。

【文献】伊藤至 1988 水草三題・千葉生物誌 37(1・2): 11-14 / 千植誌 2003: 660. / 林紀男・谷城勝弘・浅間茂 2008 手賀沼流域における水生植物の繁茂状況・千葉生物誌 58(1): 1-9

【写真】(左) 2006.9.10 群馬県 谷城勝弘 / (右) 2004 市川市 大場達之
(谷城勝弘)



B カワツルモ カワツルモ科

2009	A
2017	B
2023	B

Ruppia maritima L.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生し、先端はとがり不斉の鋸歯がある。水媒で水散布。感潮域の潟湖に通じる水路などに生じる。カワツルモ群団。[HH]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。世界に広く分布。

【県内の状況】九十九里平野の河口付近と東京湾沿岸に記録がある。浦安市には現存するが、九十九里沿岸では絶滅寸前と考えられる。近年、銚子市に作られた池に発生した。

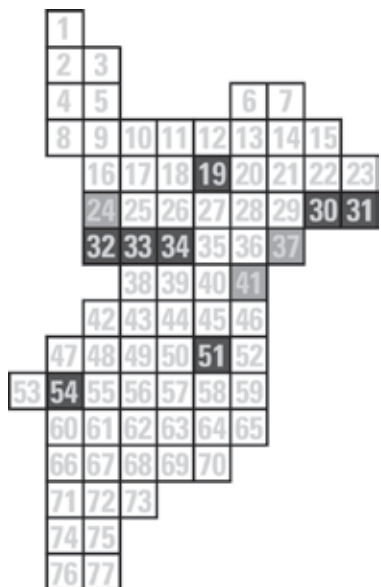
【保護対策】汽水域に生えるので保全は難しい。河口付近の汽水環境を積極的に保全するとともに生育地においては特に保全策を強化することが望ましい。

【文献】

千植誌 1958 : 432 /
千植誌 2003 : 479 /
千植誌 2003 : 664,669

【写真】

2002.08.14 浦安市大
場達之
(谷城勝弘)



B スガモ アマモ科

2009	B
2017	B
2023	B

Phyllospadix iwatensis Makino

【種の特性】多年生草本。外洋に面した潮間帯下部から漸深帯上部の、小さい砂を被る岩礁に生育する。強い根茎があり節間から2本の短く太い根を出す。葉の基部が分解してできた黒色の繊維に被われている。葉は単葉で互生。雌雄異株。葉の長さは1.5mに達し、幅は0.3～0.8cm。平行脈は5本。葉は葉柄と葉身に分化していない。葉身は革質で縁辺部は透明質で翼状、葉の表面は。開花期はエビアマモとほぼ同じ2～5月。種子は錨形。牧野富太郎（1899）は、北海道と岩手県からの採集標本を *P. scouleri* と同定しスガモの和名を与えて発表した。その後、三陸海岸（岩手県陸中、宮古半島とある）で採集した標本

を *P. iwatensis* としてハイスガモの和名を与えて新種記載を行った（Makino 1931）。しかし現在は、ハイスガモとスガモは同一種と考えられている。エビアマモに似ている。水媒で水散布。[HH]。スガモ群集。

【分布】北海道・本州（太平洋沿岸）。

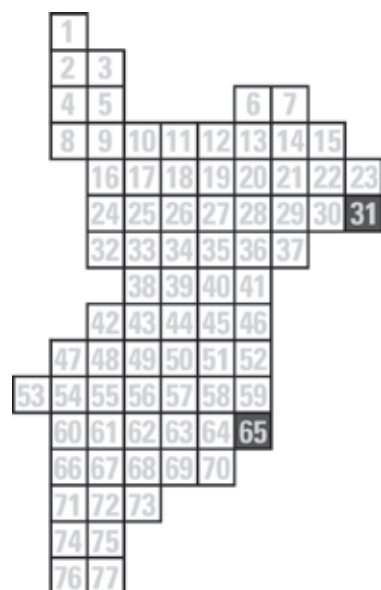
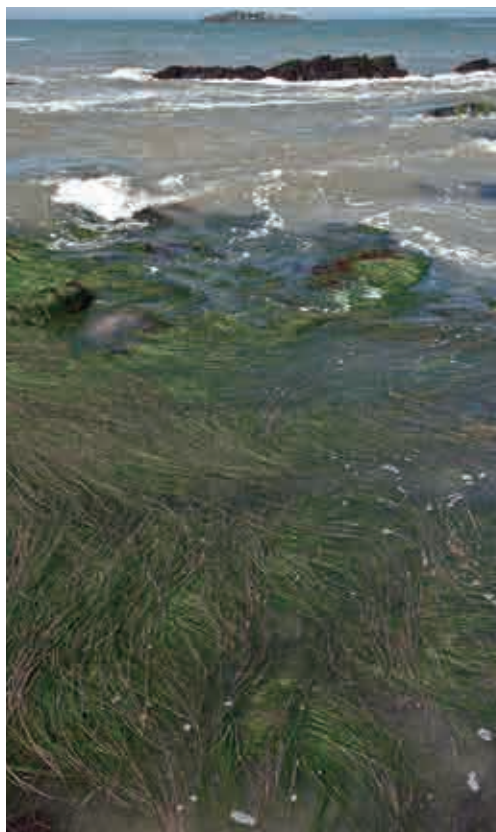
【県内の状況】銚子市～勝浦市にかけて分布し、房総半島が南限域である。

【保護対策】生育している海域を保全することが望ましい。

【文献】Makino, T. (1931) J. Jpn. Botc. 7(7) : 15
／千植誌 2003 : 663,658 / 大場達之・宮田昌彦
2007 日本海草図譜 9-10,40-41

【写真】2004 銚子市 大場達之

(宮田昌彦)



B エビアマモ アマモ科

Phyllospadix japonica Makino

2009	C
2017	C
2023	B

【種の特性】 多年生草本。岩礁海岸潮下帯上部に生える茎は太く、枯れた葉の基部の黒褐色の繊維で被われる。葉は長さ 30～100cm で幅 1.5～2.5mm で 3 脈があり、葉の縁には透明で鋭い鋸歯が並ぶ。花は 4～5 月に咲く。エビアマモ群集。[HH]

【分布】 本州(茨城県以西)・四国・九州、サハリン、朝鮮、ブリモリア。

【県内の状況】 銚子市から南房総市にかけての太平洋岸に見られる。1896 年に鴨川市で採集された標本によって記載された。

【保護対策】 岩礁海岸を自然に保つ。

【文献】 Makino, T. 1897 Bot. Mag. Tokyo 13:269 / 千植誌 2003:658,663 / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 9, 40-41

【写真】 2011.6.19 いすみ市 標本:CBM BS-3007048

(宮田昌彦)



B ヒナノシャクジョウ ヒナノシャクジョウ科

Burmattia championii Thwaites

2009	A
2017	A
2023	B

【種の特性】 菌根性の多年生草本。無葉。虫媒で重力散布。高さ 5cm 内外。照葉樹林の下などの腐植土の厚い林床に生える。カクレミノースダジイ群目。[G]

【分布】 本州(関東以西)・四国・九州・琉球。熱帯アジア。

【県内の状況】 山武市と茂原市～長生村で採集された標本がある。古い二次林などにも生えるが小型で見逃されていることが多いと考えられる。実際の分布はさらに広いであろう。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌

1975: 445 / 千植誌

2003: 695,704

【写真】 1982.9

鹿児島県 大場達之

(大場達之/天野誠)



B ホンゴウソウ ホンゴウソウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Sciaphila japonica Makino

【種の特性】 無葉緑性の多年生草本。無葉。虫媒で重力散布。高さ 3-5cm 程度。菌根性。極めて稀。モミなどの混じったやや乾いた照葉樹林の下に生える。[G]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】 清澄山に産することが知られていたが、1998 年に高岩山でも発見され、さらに木更津市ではモウソウチク林にクロヤツシロランと共に生えているのが発見されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 : 476 / 遠藤泰彦 1999
ホンゴウソウの新産地. 千植誌資料 14 : 99 / 千植誌 2003 : 2003 : 666,671

【写真】 2006.10.22
木更津市 大場達之
(大場達之/天野誠)



B ヤマジノホトトギス ユリ科

2009	B
2017	B
2023	B

Tricyrtis affinis Makino

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。シイ・カシ帯上部からブナ帯下部にかけての夏緑林、スギ林などに生える。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】 かなり多くの地域から報告されているが、ヤマホトトギスあるいはホトトギスの誤認が多い。千葉県では少ない植物である。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 伊藤至 1962 千葉県植物誌・植物目録の追加. 千生誌 11(3) : 38 / 千植誌 2003 : 685, 678

【写真】 2021.9.27 野田市 岩槻秀明

(大場達之/天野誠)



B タマムラサキ ヒガンバナ科

2009	
2017	A
2023	B

Allium pseudojaponicum Makino

【種の特性】中型の球根植物。高さは30cmから60cmになる。花茎は円柱状で、先端に密な散形花序を付ける。葉は中実で扁平であることから、中空のヤマラッキョウと区別できる。花被片は鈍頭、雄蕊は花被片より長い。虫媒で、重力散布。花期は、9～12月。海岸草地や海に面した崖に生育する。[G]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

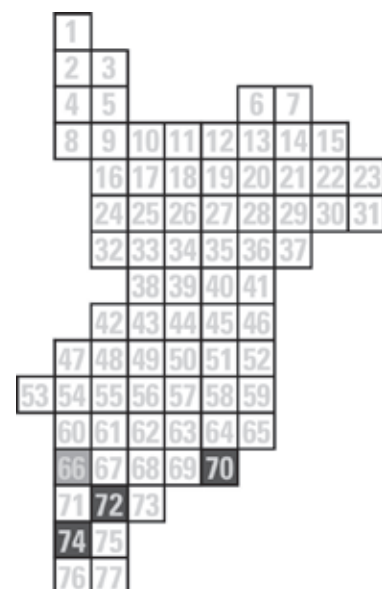
【県内の状況】館山市で1992年11月3日に採集された標本（CBM BS-98812）と同市で1995年10月28日に採集された標本（CBM BS-117493）と同市で2007年12月15日に採集された標本（CBM BS-243972）と同市で2008年9月30日に採集された標本（CBM BS-265508）がある。また、勝浦市で1980年11月2

日に採集された標本（CBM BS-360244）と富津市で1935年9月21日に採集された標本（CBM BS-328772）がある。現在まで、千葉県ではヤマラッキョウと区別されてこなかったので、房総半島南部の海辺のヤマラッキョウの記録の中にタマムラサキの記録が混じっている可能性が高い。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】青木慎哉・大場達之 2013 千植誌資料 28:281

【写真】1943.11.28 勝浦市 標本：CBM BS-6617
(天野誠)



B ハマオモト ヒガンバナ科

2009	A
2017	A
2023	B

Crinum asiaticum L. var. *japonicum* Baker

【種の特性】大型の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は夏に咲き白色。虫媒で水散布。礫浜または砂浜のゴミの打ち上げの多いハマゴウ群落やケナシチガヤ群落の中などに生える。[H]

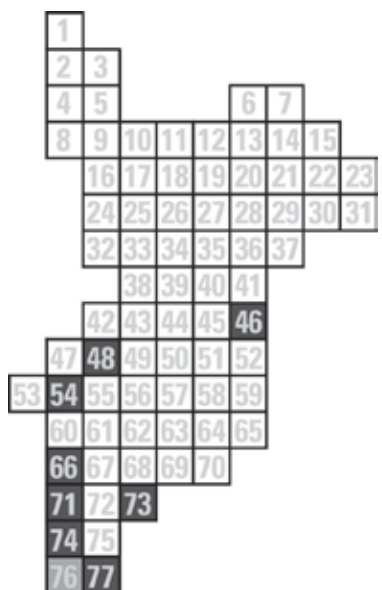
【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】館山市、南房総市、富津市。日本南部の黒潮など暖流の影響の強い海岸に分布し、千葉県は太平洋岸での北限とされている。気候の温暖化により、今後分布域が北にひろがるものと考えられる。

【保護対策】鑑賞目的での採集を控える。観光目的などで海岸に植えられていることがあるが、自然植生の中へ由来不詳の株を植えることは禁止すべきである。

【文献】千植誌 2003：690, 683

【写真】館山市 宮田昌彦
(大場達之／天野誠)



B コキンバイザサ キンバイザサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Hypoxis aurea Lour.

【種の特性】 小形の多年生草本。葉は単葉で根生し長い毛が多い。地下に球茎がある。虫媒で重力散布。やや湿った草地にはえ、黄色い花を咲かせる。[G]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】 茂原市周辺に多かったが、現在は激減している。市原市でも見つかったが、これは芝の移植に伴ったものと考えられる。

【保護対策】 鑑賞目的での採取を防ぐ。自生環境を保全する。

【文献】 腰野文男 1959 佐原市の食虫植物。佐原市誌シリーズ第2輯。26. 佐原市。千植誌 2003：689, 683

【写真】 2001.5.16 市原市 大場達之
(大場達之／天野誠)



B クサスギカズラ キジカクシ科

2009	C
2017	A
2023	B

Asparagus cochinchinensis (Lour.) Merr. var. *lucidus* Hatus.

【種の特性】 中型の常緑多年生草本。海岸の崖地に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[G] ボタンボウフウ群団。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

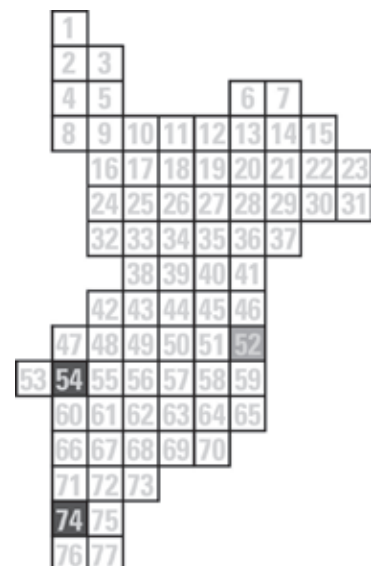
【県内の状況】 一般に海崖のしづきの当たるような草地にはえるが、千葉県では砂浜海岸のクロマツ林の周辺で採集されている。

【保護対策】 自生環境を保つ。

【文献】 千植誌 2003：674, 666

【写真】 22000.11.21 富津市 標本：CBM BS-188432

(大場達之／天野誠)



B キジカクシ キジカクシ科

2009	C
2017	C
2023	B

Asparagus schoberioides Kunth

【種の特性】 中型の多年生草本。コナラなどのやや乾いた林の林床に見られる。葉は針状の単葉で互生。虫媒で果実は赤く熟し鳥散布。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、サハリン、ウスリー。

【県内の状況】 房総半島南部に点々と自生が見られるが少ない。

【保護対策】 生息地の下草刈りを定期的に行う。

【文献】 大野正男（1972）千葉県下に於けるキジカクシの自生地。植物採集ニュース 63：42 / 浅野貞夫（1973）千葉県の高塚山と嶺岡山にもキジカクシが自生する。植物採集ニュース 66：68 / 千植誌 2003：674, 666

【写真】 1991.5.3 柏市 標本：CBM BS-162325

（大場達之／天野誠）



B ヒメイズイ キジカクシ科

2009	A
2017	B
2023	B

Polygonatum humile Fisch.

【種の特性】 多年生草本。茎はおおむね直立し、葉は単葉で互生。上部の葉脇に緑色を帯びた筒状の花が下垂して咲く。虫媒で鳥散布。ススキ群綱。[G]

【分布】 北海道・本州・九州。朝鮮、中国、サハリン、極東ロシア。

【県内の状況】 北日本の砂浜海岸に多く見られるが、県内では銚子市に見られるほか、成東・東金食虫植物群落、栗山川にも見られる。銚子市などでは同所的にハマアマドコロが生えているので、本種と混同されている場合がある。新千植誌巻頭のヒメイズイとした写真はハマアマドコロである。

【保護対策】 鑑賞目的などの採集を行わない。自然の海岸草原の環境を良好に保つ。

【文献】 新千植誌 1975：479 / 千植誌 2003：674, 667

【写真】 2000. 銚子市 木村陽子
（大場達之／天野誠）



B ヒオウギ アヤメ科

2009	B
2017	B
2023	B

Belamcanda chinensis (L.) DC.

【種の特性】 大形の多年生草本。乾いたススキ草原や明るい夏緑樹の2次林に生える。葉は単葉で互生。種子は眞黒色。虫媒で重力散布。[H] ススキ群綱。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

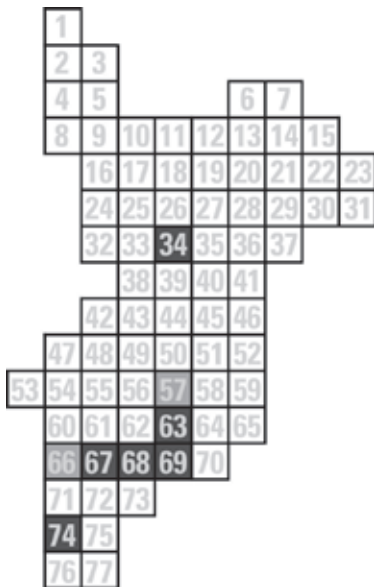
【県内の状況】 よく管理された乾き気味のススキ草原に見られるが稀である。

【保護対策】 花が美しく観賞用に採集されやすい。保護植物であることを周知徹底する。

【文献】 千植誌 2003：703,695

【写真】 1999.8.22 市原市 平田和弘

(大場達之／天野誠)



B ノハナショウブ アヤメ科

2009	B
2017	B
2023	B

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai

【種の特性】 中形の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。[H] ホソバナヨツバムグラ大形スゲ群団。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、東シベリア。

【県内の状況】 かつては水田周辺の湿地などに残されていたが、現在は極めて少なくなっている。

【保護対策】 花が美しく観賞用に採集されやすい。保護植物であることを周知徹底する。

【文献】 千植誌 2003：703,694

【写真】 2001.6.9 多古町 谷城勝弘

(大場達之／天野誠)



B カキツバタ アヤメ科

2009	A
2017	B
2023	B

Iris laevigata Fisch.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。湿地に生える。ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、東シベリア。

【県内の状況】長生村、茂原市、柏市、光町、富里市、芝山町、習志野市、船橋市などから報告されている。かつては水田周辺に残された小湿地に稀ではなく、谷津奥のハンノキ林にも見られたが、現在は激減している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。



【文献】新千植誌 1975：446／千植誌
2003：694,703

【写真】2003.05.11 君津市栽培
大場達之

(大場達之／天野誠)



B アヤメ アヤメ科

2009	B
2017	B
2023	B

Iris sanguinea Hornem.

【種の特性】中形の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。[H] ススキ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】近年市原市、大多喜町などで確認されている。

【保護対策】花が美しく観賞用に採集されやすい。保護植物であることを周知徹底する。

【文献】小松崎一雄 1973 千葉県におけるアヤメ *Iris sanguinea* Hornem. の残存。
植物採集ニュース 65：60／千植誌 2003：703, 694



【写真】2008.5.24 館山市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B マメヅタラン ラン科

2009	A
2017	B
2023	B

Bulbophyllum drymoglossum Maxim.

【種の特性】樹木着生性の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。細い茎を伸ばして基物に付着して広がる。主として照葉樹の樹幹あるいは岩に着生する。シダレヤスデゴケ・ヒメケビラゴケ群団。[E]

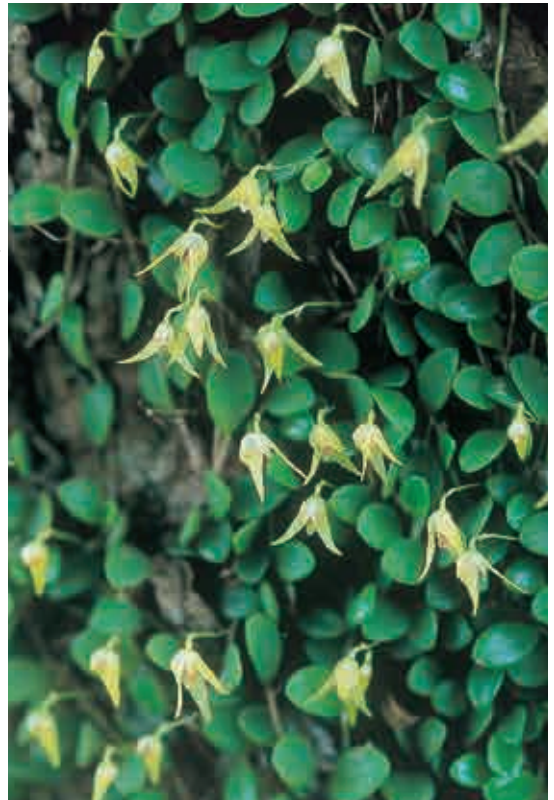
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮南部、台湾、中国。

【県内の状況】1882年に清澄山で採集された。その等価基準標本3枚は東京大学総合研究博物館に残っている。清澄山のほか、大福山、高宕山などでも採集されているが、確実に現存が確認できるところは極めて少ない。

【保護対策】生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしない。生育地点のみを保護しても、周囲の伐採によって空中湿度が低下すれば衰退する。

【文献】Okubo, S. 1887 Bot. Mag. Tokyo 1 : 14, t. 3 / 倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物・演習林 8 : 73 / 千植誌 2003 9/10, 922

【写真】2001.5.15 君津市 福田洋
(大場達之/天野誠)



B ムギラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	B

Bulbophyllum inconspicuum Maxim.

【種の特性】常緑の着生多年草。楕円球状の多肉の偽鱗茎から出る葉は葉は厚く倒卵形。花は5～6月に咲き、短い花序の先に1～3花の淡黄緑色の花をつける。虫媒で風散。常緑樹の樹幹、ときに岩面に着生する。(E)

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の自然林、社寺林、岩場などに生えるが、環境の乾燥化などで減少している。

【保護対策】自生が見られるモミ林、ウラジロガシ林などを保全する。観賞用などでの採集を行わない。

【文献】倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物・演習林 8 : 73 / 千植誌 2003 922, 910

【写真】1997 宮崎県産 千葉市栽培 大場達之

(大場達之/天野誠)



B クゲヌマラン ラン科

Cephalanthera longifolia (L.) Fritsch

2009	B
2017	C
2023	B

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。花は白色、ギンランに似るが花は一回り大きく、距が短く、内花被片が外花被片より短かく、唇弁基部の色彩の状態が異なる。またササバギンランにも似るが、花序基部の葉は、花序より短い。虫媒で風散布。クゲヌマランの原産地では海岸付近の砂丘のクロマツ林の下に生えるが、近年神奈川県と千葉県では埋め立て地の植栽林や、内陸のコナラなどの二次林の下などに群生するのが発見されている。[G]

【分布】本州・四国。神奈川県の高尾海岸で発見命名され、その後青森県から四国に至る太平洋岸から報告されている。ユーラシアに広く分布する *Cephalanthera longifolia* L. と同一種と考えられる。

【県内の状況】千葉県植物誌（1958）に「久内清孝氏によれば前川文夫博士、一宮？に採るという」とあるが、

東京大学資料研究博物館には標本は存在しない。しかし2007年に千葉市の埋め立て地のクロマツ、スダジイ、マテバシイなどの植栽地で、キンラン、ギンランなどと共に大量に生育しているのが発見され、2008年春の調査では船橋市、市川市などでも発見されている。植栽地の土壌環境などが、20年ほどの年月で、クゲヌマランおよびそれら共生する菌類の生育に好適な条件に変化したものと推定される。その状況からすると今後分布地および個体数は増大すると推定される。

【保護対策】植栽木の維持管理をこれまでと大きく変えず、鑑賞目的などでの採集を控えれば維持は容易と考えられる。

【文献】前川文夫 1971 原色日本のラン：203／新千植誌 1975：442／大野啓一ほか 2008 クゲヌマランが千葉市内に多産．千植資料 24：213

【写真】2008 千葉市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B ハマカキラン ラン科

Epipactis papillosa Franch. & Sav. var. *sayekiana* (Makino) T.Koyama

2009	A
2017	B
2023	B

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。若い花序の先端は垂れ下る。花は6月に咲く。唇弁基部の広い農褐色の蜜盤が特徴的である、虫媒で風散布。砂浜海岸のクロマツ林の下に生える。[G]

【分布】本州。神奈川、千葉、茨城、宮城、岩手各県から知られている。最初神奈川県の高尾海岸で発見され牧野富太郎によって命名された植物で、カキランの海岸型と考える研究者もあったが、後にエソズズランの変種に組み替えられた。その後、橋本保はヨーロッパに広く分布する *Epipactis helleborine* (L.) Cranz の変種としている。*E. helleborine* は北アメリカの太平洋岸の広い範囲に帰化していることが知られている。日本に見られるものも *E. helleborine* の変種ではなく *E. helleborine* そのものの帰化である可能性がある。

【県内の状況】最初は、県の一宮海岸で発見され、次いで神奈川県の鶴沼で採集されたという、すなわち千葉県が最初の発見地である。個体数は少ない。1997年に長生村で確認されている。ほかにいすみ

市、一宮町での観察記録がある。千葉県植物誌（1958）に富津市で採集されたという記述もある（1958）。

【保護対策】ほかのラン科植物と同じく、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。また生育地の松林を自然な姿に保全する。

【文献】牧野富太郎 1948 我が思ひ出 76。；能勢保（1958）千葉県に於けるラン科植物の分布とその外的要因について．新千植誌 1975：198-198／橋本保・神田淳 1981 原色野生ラン 73／Luer, C.A. 1975 The Native Orchids of the United States and Canada excluding Florida. 75-76.／千植誌 2003 915,9050

【写真】いすみ市 能勢保所蔵標本 神奈川県（花）

(大場達之／天野誠)



B カキラン ラン科

2009	B
2017	A
2023	B

Epipactis thunbergii A.Gray

【種の特性】多年生草本。シイ・カシ帯からブナ帯にかけての湿原およびススキ草原に生える。根茎は横に伸び、数本が群がっていることが多い。茎は高さ 40～60 cm。葉は単葉で互生。花は 7 月に咲き黄褐色で、唇弁は白く紅紫色の斑紋がある。虫媒で風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ウスリー。

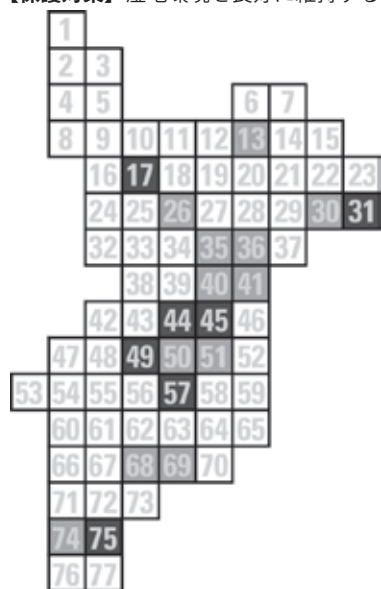
【県内の状況】草地の面積の広い頃には県内全域では、谷津田の湿った斜面などに普通に見られたが、湿った草原の減少と選択的採取のために激減した。2000 年以降の記録は 4 例に過ぎない。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：442／千植誌 2003：915, 905

【写真】1998 市原市 平田和弘

(大場達之／天野誠)



B オニノヤガラ ラン科

2009	C
2017	A
2023	B

Gastrodia elata Blume

【種の特性】大型の多年生草本。地下に楕円体状の大きな塊茎がある。茎は淡黄褐色で直立し枝分かれせず、大きなものは高さ 1 m になる。葉は無葉緑で鱗片状。花は 6 月に咲き黄褐色。虫媒で、風散布。菌根性。ナラタケと共生。ススキ草原あるいはナラ類の林などに生える。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】かつては普通にあったと考えられるが、標本あるいは観察記録は少なく、産地は市原市から八街市・八千代市・市川市にかけての県の中部に集まっており。綿密な調査が行われている富里市、佐倉市などでも記録がないことを見ると、現在は稀な植物になっていると考えられる。

【保護対策】生育地を良好な状態に保つ。

【文献】千植誌 2003：916, 906

【写真】2008.6.19 千葉市 成田篤

(大場達之／天野誠)



B ナヨテンマ ラン科

Gastrodia gracilis Blume

2009	A
2017	A
2023	B

【種の特性】 無葉緑菌根性の多年生草本。花は白色。虫媒で風散布。照葉樹林あるいはスギ林の厚い腐植土に生える。6月末に開花する。オニノヤガラ属の白花品種シロテンマに似ているが、花柄が花後に5cmほどに伸張すること、茎の鱗片葉が円頭であることなどで区別できる。[G]

【分布】 本州（関東地方以西の太平洋側）・九州。

【県内の状況】 1933年に清澄山で採集された標本が牧野標本館に収蔵されているほか、山武市、大網白里市、千葉市などで記録されているが、極めて稀な植物である。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 津山尚 1952 日本産オニノヤガラ属雑記 (1) *Gastrodia gracilis* Bl. の再発見に就いて. 植物研究雑誌 27: 19-26. / 千植誌 2003: 916,906

【写真】 2006.07.09 大網白里町 福田洋
(大場達之/天野誠)



B ベニシュスラン ラン科

Goodyera macrantha Maxim.

2009	A
2017	B
2023	B

【種の特性】 小型の常緑多年生草本。葉は単葉で互生し、濃緑色で表面はピロード状でえ中肋は白い。花は7月頃に咲き、花茎の先に1〜3個、長さ3cmほどの白くわずかに紅色を帯びた花を咲かせる。虫媒で風散布。空中湿度の高い渓谷の岩上に生える。地上生。[H]

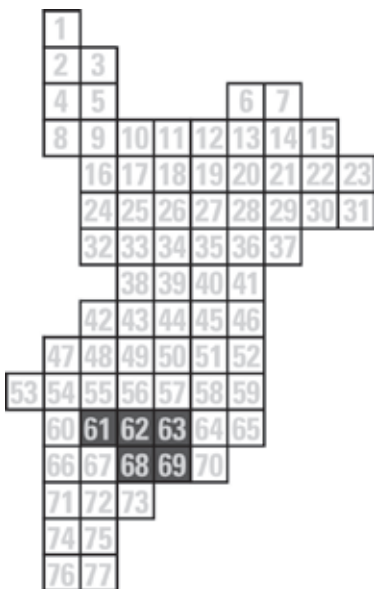
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮南部。

【県内の状況】 大多喜町と君津市に記録されている。清澄山には古くから知られ、高岩山周辺からも採集されている。花が大きく観賞用に採取されることが多く、著しく少なくなっている。

【保護対策】 生育地の谷の植生を保全するとともに、観賞目的の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 能勢保 1951 千葉県産のラン科植物. 千植誌基礎資料 1(1): 44-50 / 正宗 厳敬・里見信生 1960 北陸の植物 9(1): 1. / 千植誌 2003: 919,907

【写真】 2003.07.17 鴨川市 大場達之
(大場達之/天野誠)



B ムヨウラン ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Lecanorchis japonica Blume

【種の特性】無葉菌根性の多年生草本。無葉。茎は群れて立ち、花は黄褐色で6月に咲く。照葉樹林のやや湿った林床などに生える。虫媒で、風散布。
[G] カクレミノースダジイ群目。

【分布】本州（東北南部）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山・三石山系に古くから知られ、市原市、成田市、君津市、鴨川市などからも発見されているが、その一部はクロムヨウランの誤認の可能性がある。

【保護対策】生育地である森林の環境を良好に維持することが望ましい。／能勢保 1951 千葉県のラン科植物。千植誌基礎資料 1(1)：44-50／千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書（1987 及び 1994）。

【文献】千植誌 2003：916, 906

【写真】1997. 市原市 平田和弘

(大場達之／天野誠)



B ツレサギソウ ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Platanthera japonica (Thunb.) Lindl.

【種の特性】多年生草本。林縁や草地に生える。高さ 50 cm ほどになる。葉は単葉で互生し幅 3～5 cm。花は 5～6 月で白色、長さ 1.5 cm ほどの唇弁と、長さ 3 cm ほどの白い距が目立つ。虫媒で風散布。[G] ススキ群綱。

【分布】北海道（南部）・本州・四国・九州。

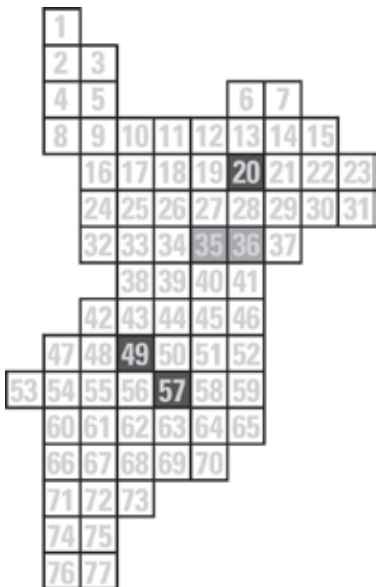
【県内の状況】成田市、東金市、山武市、千葉市、市原市、勝浦市や鹿野山など多くの報告があるが個体数はどこでも少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】能勢保 1951 千葉県
のラン科植物 千植
誌基礎資料 1(1)：44-50
／新千植誌 1975：444
／千植誌 2003：913,
903

【写真】1982 八街市
大場達之

(大場達之／天野誠)



B ヤマサギソウ ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Platanthera mandarinorum Rchb.f. var. *brachycentron* (Franch. & Sav.) Koidz.

【種の特性】多年生草本。湿地および明るい草地に生える。地下に肥厚した根がある。葉は単葉で互生し茎に1～2枚。花は6～7月に咲き淡黄緑色で、唇は下を向く。虫媒で風散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】茂原市～長生村のほか、佐倉市、山武市、東金市などでの記録があり、近年、酒々井町や銚子市でも記録されているが、稀である。

【保護対策】鑑賞目的での採取を行わないと共に、湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：444./ 千植誌
2003：903,913

【写真】1994. 銚子市 大場達之
(大場達之/天野誠)



B コバノトンボソウ ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Platanthera tipuloides Lindl. var. *nipponica* (Makino) Ohwi

【種の特性】小形の多年生草本。谷津田の周りの管理された湿った土手などに生える。葉は単葉で花茎には普通1枚の葉がつく。花は6～7月に咲き、黄緑色で、距の先端は上を向く。虫媒で風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】木更津市、市原市、君津市、大多喜町、長柄町などで記録されているが、どこでも少ない。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。水田周辺の土手の草地を外来雑草に占領されないように管理する。

【文献】千植誌 2003：913,903

【写真】1935.8.1 群馬県 標本：CBM
BS-328601

(大場達之/天野誠)



B トキソウ ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Pogonia japonica Reichb.f.

【種の特性】小形の多年生草本。貧栄養の湿地に生育する。根茎は横に長く這い分岐して、群生する。葉は単葉で互生。6月に花茎の長短に1個の紅紫色の花を横向きにつける。虫媒で風散布。[HH] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国。

【県内の状況】山武市、茂原市～長生村に大きな群落が見られたが、現在は成東・東金食虫植物群落のみである。茂原市～長生村の群落は長生村内に移植された。また成田市などにも知られていたが、現在は絶滅している。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】千植誌 2003：915, 905

【写真】2008.5.8 山武市 能勢正代
(大場達之／天野誠)



B カヤラン ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Sarcochilus japonicus (Miq.) Rchb.f.

【種の特性】小形の常緑多年生草本。樹木着生。葉は単葉で互生。花は5月に咲き、淡黄色。虫媒で風散布 [E]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】かつてはイヌマキ、カヤのどの樹幹に着生するのが珍しくなかったが、大気汚染や、開発による大気乾燥化などによって衰退すると共に、観賞用の採取が加わって、著しく少なくなっている。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】千植誌 2003：923, 910

【写真】2002.6.16 市原市 福田洋
(大場達之／天野誠)



B クモラン ラン科

Taeniophyllum glandulosum Blume

2009	A
2017	A
2023	B

【種の特性】 小型で無葉性の多年生草本。無葉。虫媒で風散布。照葉樹林帯の主として常緑樹の樹幹に着生する。緑葉を欠き緑色の根で樹皮に着生する。花は淡緑色でごく小形。花期は5～6月。密集した自然林には少なく、空中湿度が高く、しかも樹幹に光の当たる林縁または、やや開けた林、ツツジ類の植え込み、梅林、イヌマキの生け垣、稀に石垣にも着生。特に社寺林に多く見られる。[E]

【分布】 本州（福島県以南）・四国・九州・琉球。朝鮮南部。

【県内の状況】 鴨川市、大多喜町、千葉市、長南町、横芝光町などに分布が知られている。もともと個体数が少なかったが、生活の根拠となる社寺林の樹木の減少と、大気汚染による枯死衰退で現在は極めて稀である。栽培は極めて困難であるにもかかわらず、稀少なラン科植物であることから採取され、人目につくところでは壊滅状態である。

【保護対策】 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。生育地の社寺林などの保全に努めることが望ましい。

【文献】 能勢保 1951 千葉県産のラン科植物・千植誌基礎資料 1(1):44-50 / 正宗厳敬・里見信生 1961 北陸の植物 9 (3-4): 65. / 千植誌 2003 : 922,910

【写真】 1998. 清澄山 大場達之
(大場達之／天野誠)



B ヒトツボクロ ラン科

Tipularia japonica Matsum.

2009	B
2017	A
2023	B

【種の特性】 多年生草本。尾根筋のモミ林や乾き気味のスギ林などに生える。葉は単葉で1枚根生。虫媒で風散布。1枚の冬緑葉を持つランで葉の裏は赤紫色。花は褐色で6月に咲く。単生し個体数は少ない。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮南部。

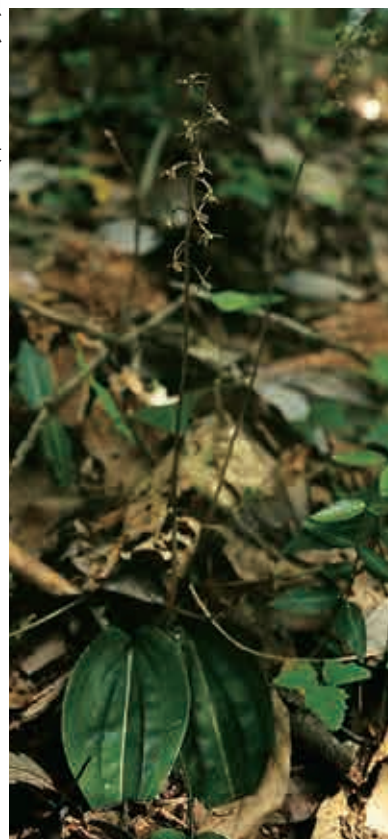
【県内の状況】 清澄山・三石山山系には古くから知られてきたが、近年市原市、佐倉市、八千代市、大多喜町などからも見つかった。どこでも個体数は少ない。

【保護対策】 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 919,908

【写真】 1995. 市原市 平田和弘

(大場達之／天野誠)



B トンボソウ ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Tulotis ussuriensis (Regal) H.Hara

【種の特性】 小～中形の多年生草本。暗く湿った照葉樹あるいは夏緑樹林の腐植の多い林床に群れて生える。葉は単葉で2枚互生。花は8月に咲き淡緑色。虫媒、風散布。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、千島、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】 佐倉市、千葉市から館山市、南房総市にかけて産地が知られるが、比較的稀で、開花しない株が多いため見過ごされている可能性がある。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】 千植誌 2003：914, 904

【写真】 1950.7.14 山武市 千葉県立中央博物館所蔵標本

(大場達之／天野誠)



B イセウキヤガラ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Bolboschoenus planiculmis (F.Schmidt) T.V.Egorova

【種の特性】 多年生草本。河口など汽水性の河畔、湿地に生える。葉は単葉で互生。コウキヤガラに似るが、葉は鋭三稜で小穂は1～2個。風媒で水散布。[HH]

【分布】 本州（関東以西）。

【県内の状況】 古くは長生村（1934.7 CBM BS-165675）、いすみ市（1956.7.26 CBM BS-10082）などの標本があるが、現在はこれらの既知産地での確認はない。河川改修、湿地の造成で消滅したものと思われる。近年、木更津市、船橋市、鉾田市、御宿町の海岸や河口部で確認されているが、生育地の環境変化で消滅するものが多い。

【保護対策】 現生育地の環境を良好に維持する。旧生育地には埋土種子が存在する可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことが望ましい。

【文献】 Koyama, T. 1958 TJ. Fac. Sci. Univ. Tokyo III 7(6)：271-366 / 清水建美 1967 イセウキヤガラとその生態。植物研究雑誌 42(6)：175-181 / 小山鉄夫 1980 日本のウキヤガラ属。Acta Phytotax Geobot. 31：139-148 / 伊藤至 1981 千生誌 30(2)：49-50 / 木村陽子 1992 千生誌 42(1)：1-8 / 千植誌 2003：883

【写真】 2020.6.14 鉾田市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B イトハナビテンツキ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Bulbostylis densa (Wall.) Hand. -Mazz.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で風散布。全草繊細。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、インド。

【県内の状況】九十九里浜平野中南部、特に茂原市と長生村には生育量が多い。造成地や表土の攪乱箇所にしばしば出現するが、放置された所では数年で消滅してしまう。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。表土の攪乱や刈り取りによって遷移の進行を阻止するなどの管理を施すことも考えられる。

【文献】千植誌 1958：409／新千植誌 1975：455／折目 1993 富里の植物：128／千植誌 2003：866

【写真】2007.9.23 茂原市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ショウジョウスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	B

Carex blepharicarpa Franch.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。山地や高山に生える。森林性。基部は栗色～褐色。時に短く斜上する匍枝をもつ。風媒で重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】清澄山系、鋸山、高岩山などの標高 300m 付近の岩上に少数個体が生育する。ツクバスの分布域に重なるが、より尾根の上方に生育する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：409／千植誌 1975：455／千植誌 2003：841,845

【写真】2006.5.27 群馬県 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ヌマアゼスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Carex cinerascens Kük.

【種の特性】多年生草本。湿地性（河畔）。葉は単葉で互生。風媒で水散布。アゼスゲに似るが、密に叢生して長い根茎を出し、果胞が無脈で口部が全縁であることで異なる。[HH]

【分布】本州（東北、関東）。朝鮮。

【県内の状況】1997年に栄町で確認された（CBM BS-124226）。刈り取り管理の継続された過湿地にやや疎らに群生し、ヨシ、カサスゲ、オニナルコスゲ、アゼスゲ、ショウブと混生する。利根川河川敷には広範囲に分布する可能性がある。

【保護対策】刈り取り管理を継続して、遷移の進行を抑えることが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物 37-50 / 谷城勝弘 1999 千葉県新記録のスゲ属植物。千葉生物誌 (49)1: 12-17 / 千植誌 2003: 831,821

【写真】1997 栄町 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ミヤマジュズスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	C
2023	B

Carex dissitiflora Franch.

【種の特性】多年生草本。森林湿地性（県内では丘陵地の斜面湿地性）。葉は単葉で互生。葉幅3～7mm。小穂は長い柄があり、果胞は隔たり嘴は長い。柱頭3。全体に柔弱。風媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】市原市(1989.5.3 CBM BS-85742)及び大多喜町(1996.5.25 CBM BS-152802)で採集されている。生育地の沢沿いの斜面は薄暗く絞り水が豊富である。このような環境の所は、これまでに詳細な調査が不十分であったため

発見が遅れたと考えられる。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物: 37-50 / 平田和弘 1996 ミヤマジュズスゲを見つけた話。千植誌資料 8: 49-50 / 谷城勝弘 1996 調査会目録: 119 / 千植誌 2003: 841,845

【写真】1995 市原市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B サツマスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Carex ligulata Nees

【種の特性】多年生草本。森林性。葉は単葉で互生。走出枝は出ない。茎の上方に多数の葉を密生。基部の鞘は暗血紫色。果胞は密毛あり。本種は中国、ヒマラヤ要素の種で、ヒマラヤ山脈を故郷とし、その分布の端が日本に及んだと考えられている。風媒で、付着散布。[H]

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州。朝鮮、中国、インド。

【県内の状況】南房総市に産することが古くから知られている。山頂付近に複数の小群落の形成箇所がある。近年、周辺域にも点在することが明らかになった。

本種分布の北限地は南房総市である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】小山鉄夫 1958 カヤツリグサ科について. 千植誌 1958 : 172-194 / 千植誌 1958 : 411 / 新千植誌 1975 : 457 / 千植誌 2003 : 854,848

【写真】1996 南房総市 大場達之 (谷城勝弘)

Carex ligulata Nees 1999.05.21 千喜町大井田



B アサマスゲ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Carex lithophila Turcz.

【種の特性】多年生草本。湿地性または草党性。葉は単葉で互生。高さ 30 ~ 40cm、地下に長い根茎をもつ。果胞の表面は無毛、茎は花後著しく伸長する。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州。朝鮮、中国北部。

【県内の状況】県内では初め印旛沼の低湿地で発見された（1988.4.30, CBM B5-030272）。その後、東庄町、香取市に複数の群生箇所が確認された。日本での既知記録は利根川上流の浅間山麓であり、本種は利根川上流部起源型（谷城 1995）に属す。満潮時には感潮域となる利根川河口堰の下流側には生育しない。

【保護対策】群生地での刈り取りを継続することによって、ヨシ群落の遷移の進行を抑えとともに、生育地周辺の河川敷を保全することが望ましい。

【文献】谷城 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物 37-50 / 谷城勝弘 1999 千生誌 (49)1: 12-17 / 千植誌 2003 : 829 / 谷城勝弘 2005 千生誌 55(1): 9-16

【写真】2006.5.19 成田市 谷城勝弘 (谷城勝弘)



B エゾツリスゲ カヤツリグサ科

2009	A
2017	A
2023	B

Carex papulosa Boott

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生、灰緑色を帯び、基部の葉鞘はわら色。風媒で水散布。高さ 30～50cm。小穂は 2～3 個あって、頂小穂は雄性、側小穂は雌性で長い柄があって下垂する。湿地性。ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。[HH]

【分布】北海道・本州（中部以北）・九州に稀。国内では隔離的に分布している。朝鮮、ウスリー。

【県内の状況】多古光湿原で確認され（1987.5.5 CBM BS-145403）、その後この湿原を含む流域の詳細な調査により栗山川沿いの湿地にも点在することが判明した。湿原内には特に高密度で生育している。冬季の刈り取り範囲が激減しており、ヨシが密に繁茂した所では生育量が減っている。

【保護対策】刈り取りによってヨシの純群落への移行とセイタカアワダチソウなどの大型多年草の侵入が抑えられ、小型の草本類の生育が維持されてきた。刈り取りを継続し、生育環境を維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1987 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全地域等適地調査報告書：265-297。／伊藤至 1988 千葉県の新記録エゾツリスゲとヌマクロボスゲ。レポート日本の植物 37：165／谷城 1990 調査会目録：114／谷城勝弘 1991 調査会目録：167／岩瀬・谷城 1992 千葉県多古町次浦の栗山川沿い湿地の植物群落。千葉生物誌 4(21)：53-56／谷城勝弘 1993 調査会目録：249／岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56／谷城勝弘 1995 調査会目録：114／谷城 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50／千植誌 2003：844,846。／千植写真 2005：360。／岩瀬・谷城・市原・久保田・野口 2007 栗山川中流部河川敷の植物と植物群落。千葉生物誌 57(1,2)：39-45

【写真】2004.5.4 多古光湿原 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B マメスゲ カヤツリグサ科

2009	C
2017	D
2023	B

Carex pudica Honda

【種の特性】多年生草本。森林性または湿地性。葉は単葉で互生。花序は葉よりはるかに低く、小穂はすべて根生状。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州にやや稀。

【県内の状況】県内では初め横芝光町の乾草沼の湿地林で確認された（1989.4.23 CBM BS-91732）。九十九里浜平野南部一帯の長生村、茂原市、大網白里市の湿地にも点在する。柏市に数個体が生育する。

【保護対策】生育地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録：112／谷城勝弘 1991 調査会目録：163／谷城勝弘 1993 調査会目録：248／谷城勝弘 1995 調査会目録：117／谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50／谷城・細川・伊藤・小野沢・山田・野口・久保田 1996 乾草沼。千葉県自然環境保全学術調査報告書：11-101／千植誌 2003：838,826

【写真】2011.5.5 横芝光町 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B コカンスゲ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Carex reinii Franch. & Sav.

【種の特性】多年生草本。単葉。小穂は雄雌性。果胞は熟しても花軸に対して開出しない。風媒で、重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】古くは清澄山で採集された標本がある(1956.4.15 CBM BS-152460)が、現在は清澄山系で確認されない。富津市にまとまった群落がある。

【保護対策】現生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：841,845

【写真】2013.5.19 富津市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B アブラシバ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Carex satsumensis Franch. & Sav.

【種の特性】多年生草本。山地の荒れた裸地または河畔の砂礫地に生える。細長い地下走出枝があり、葉は単葉で互生。小穂は茶褐色を帯びてべたつく。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。台湾、フィリピン、インド。

【県内の状況】船橋市(1977.5.19 HCM)と市原市に生育が知られる。船橋市は人口集中による土地の改変が著しく、生育地は消滅したと思われる。市原市では数個体が生育している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】吉川代之助 1977「新版千葉県植物誌」に加えるアブラシバとタチシオデ。植物採集ニュース 93：113 / 吉川代之助 1979 船橋市野外植物目録 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：163 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 平田・田辺 1996 大福山周辺の自然環境。千葉県自然環境保全学術調査報告書：217-225 / 谷城勝弘 1996 調査会目録：118 / 千植誌 2003：832,823。 / 千植写真 2005：371

【写真】1995.6.11 市原市 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B アズマナルコ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Carex shimidzensis Franch.

【種の特性】多年生草本。山地の湿地性。葉は単葉で互生。茎は太く基部は肥厚する。果実の熟期は5月下旬から6月で、他のスゲ類より遅れる。風媒で重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】県内では初め市原市で確認され（1995.6.11 CBM BS-92886）、後に清澄山系、高宕山系を含む房総丘陵の湿潤な斜面や川沿いに複数の生育地が確認された。本種は類似した環境に生育するテキリスゲ *C. kiotensis* Franch. et Sav. に似ており、混同されることが多い。群生して生える所はなく個体数は限られる。

【保護対策】斜面湿地や細流沿いの環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1996 調査会目録：118 / 谷城勝弘 1999 千葉県新記録のスゲ属植物. 千葉生物誌 49(1): 12-17 / 千植誌 2003: 831,821

【写真】2006.5.13 君津市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B コップモエギスゲ カヤツリグサ科

2009	
2017	C
2023	B

Carex tristachya Thunb. var. *pocilliformis* (Boott) Kük.

【種の特性】小型の多年生草本。高さ、10～40cm。匍匐枝は出さない。基部の鞘は褐色で繊維状に分解する。雄小穂は著しく細く、雄花穎はコップ状。果胞は小さく、2.5～3mm。花の数は少なく、数個。雌花穎の芒は短い。花期は、4月から6月。風媒で重力散布。山地の草地に生育する。

【分布】本州。

【県内の状況】主に銚子市に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975:458 / 千植誌 2003:840 / 日本カヤツリグサ科植物図譜 2011 334

【写真】1991.4.28 岬町 谷城勝弘

(天野誠)



B キンガヤツリ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Cyperus odoratus L.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。小穂の各小花間に関節がある。穂は熟して黄褐色となる。果実は扁平で倒卵形。湿地性。[H]

【分布】本州（関東地方）・四国・琉球、小笠原。

【県内の状況】県内における従来の記録は本種とその近縁種を区別しなかったため多数の記録があるが、県北部と利根川流域に記録される大多数のものはホソミキンガヤツリ *C. engelmannii* Steud. である。キンガヤツリの県内における生育地は館山市のみを確認している。古くはキンガヤツリが利根川流域にも生えていた可能性は否定できないが標本は見出せない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：413 / 伊藤至 1971 千葉市内のムツオレガヤツリとウラギク・植物採集ニュース 53 / 伊藤至・五十嵐幸 1971 房

総植物図譜キンガヤツリ・千葉生物誌 53 / 千植誌 1975：459 / 齊藤吉永 1988 利根川河川敷のキンガヤツリ・レポート日本の植物 35 / 齊藤吉永 1989 千葉県下のキンガヤツリ・千葉生物誌 38(2)：57 / 千植誌 2003：895

【写真】2008. 11. 29 館山市大場達之

(谷城勝弘)



B ウキミガヤツリ カヤツリグサ科

2009	
2017	
2023	B

Cyperus pacificus (Ohwi) Ohwi var. *margoflatus* S.Fujii

【種の特性】一年生草本。花序は頭状。小穂は狭卵形、長さ2～7mmで扁平、多数の小花を2列につける。鱗片は卵円形で長さ1.5～1.7mm、薄膜質、鈍頭。瘦果は長楕円形で長さ0.8～1mm、2稜あって稜上には膨れた翼状のつくりがある。[H]

【分布】本州、四国。朝鮮。

【県内の状況】東金市、茂原市、睦沢町、いすみ市など水位の変動の顕著な溜め池において、秋季の干上がった時期に多数個体が一斉に発生する。

【保護対策】溜め池を保全し、本種の生育に適した環境を維持することが望ましい。

【文献】Shinji Fujii, 2016. A New Variety of *Cyperus pacificus* (Ohwi) Ohwi (Cyperaceae). Acta Phytotax. Geobot. 67(2):123-126

【写真】2004.10.2 睦沢町

谷城勝弘

(谷城勝弘)



B コツブヌマハリイ カヤツリグサ科

2009	B
2017	C
2023	B

Eleocharis parvinux Ohwi

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果実は1～1.2 mm。刺針は4個で硬く直立し、果実の3倍になる。風媒で水散布。[HH]

【分布】本州（関東地方）。

【県内の状況】手賀沼、印旛沼流域を中心とする利根川水系及び茂原市～長生村に生育する。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことも考えられる。現生育地の環境を良好に維持する。

【文献】千植誌 1958：415／新千植誌 1975：460／千植誌 2003：867,872

【写真】2007.5.5 成田市 谷城勝弘（谷城勝弘）



B マシカクイ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Eleocharis tetraquetra Nees

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。シカクイに似るが、茎は真四角で根茎は短く這う。小穂の表面はシカクイよりも滑らか。熟期は9月下旬から10月で、ハリイ属の中では最も遅い。風媒で水散布。[HH] ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、台湾、インドシナ半島、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】県内では、初め成東・東金食虫植物群落で発見された（1988.9.30 CBM BS-144455）。後に酒々井町、多古町、横芝光町で確認された。横芝光町は生育地の休耕地が耕作水田に転用となり個体は消滅したが、坂田池湿地性植物園に移植されて育成されている。酒々井町では放棄田の遷移が進んで個体数は減少している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】岩瀬・谷城 1987 成東・東金食虫植物群落保護増殖事業報告書／岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56／谷城・小野沢 1994 坂田城跡の自然。千葉県自然環境保全学術調査報告書：9-87／岩瀬徹 1996 調査会目録：2／千植誌 2003：877／谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課 7-29

【写真】2003.9.14 山武市 谷城勝弘（谷城勝弘）



B ミツカドシカクイ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	B

Eleocharis wichurae Boeck. f. *petasata* H.Hara

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。シカクイに似るが、稈は三稜。風媒で水散布。[HH]

【分布】北海道・本州。中国、カナダ。

【県内の状況】県内では初め多古光湿原で確認された（1989.6.15 CBM BS-142939）。後に旭市で確認された（1991.11.2 CBM BS-91821）。生育個体数は少なく、群落の遷移の進行により消滅寸前である。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録：121 / 谷城勝弘 1991 調査会目録：177 / 岩

瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：252 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：118 / 千植誌 2003：877 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課 7-29

【写真】1991.9.19 旭市 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B コアゼテンツキ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Fimbristylis aestivalis (Retz.) Vahl

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。メアゼテンツキに似るが、小穂は小型で卵形、花柱脚は無毛。風媒で、水散布。[Th]。

【分布】本州に稀。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】我孫子市、印西市、東金市、長生村、千葉市などに生育するが、個体数は少ない。従来の記録は他のアゼテンツキ類を誤同定したものが多く含まれる。既知の生育地のほとんどは現在消滅している。我孫子市、東金市には比較的多い。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：415 / 新千植誌 1975：461 / 谷城勝弘 1995 印旛沼を中心とする地域のテンツキ属植物。印旛沼—自然と文化—：19-24 / 千植誌 2003：865,869

【写真】2007.10.21
我孫子市 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B イヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Rhynchospora chinensis Nees & Meyen

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。オオイヌノハナヒゲに似るが刺針はそれより短く、密に上向き粗造。風媒で付着散布。[H] ホシクサーコイヌノハナヒゲ群団。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、インド、マレーシア。

【県内の状況】県内では長生村～茂原市の湿地が現存する唯一の生育地である。長生村では、多数個体が高密度で生育していた。この群落はオオイヌノハナヒゲ、ヒメイヌノハナヒゲ、イトイヌノハナヒゲ、ゴマクサ、ヒメナエ、アイナエ、コモウセンゴケ、トキソウなど本県での希少種を複数交え、貴重な群落であった。その場所が工場用地として埋め立てられることになり、群落を含む表土の一部を近隣の長生村内に移植し、維持管理することになった。

【保護対策】湿地の環境を良好に管理、維持することが望ましい。湿地性植物の保護には、刈り取りなどの人為的管理が不可欠である。適切な管理体制をつくることが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録：184 / 岩瀬・谷城 1992 千葉県長生村数塚に残存する湿地群落：11 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：171 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：253 / 谷城勝弘 1994 調査会目録：122 / 野口昭造 1996 調査会目録：114 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千葉生物誌 48(1)：6-22 / 千植誌 2003：859,850

【写真】1990.8.28 長生村 谷城勝弘 標本 (谷城勝弘)



B ヒメイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Rhynchospora faberi C.B.Clarke f. *umemurae* Ohwi & T.Koyama

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂は5～6mm。果実は広倒卵形で長さ2mmくらい。刺針は6本でやや太く、上向粗造。風媒で付着散布。

[H] ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】千葉県植物誌(1958)に茂原市、長生村の記録がある。近年、成東・東金食虫植物群落、長生村に多産することが確認されている。茂原市～長生村には、改変されることなく残されてきた小湿地が点在しており、このような所に本種の生育が確認されるが遷移の進行に伴って衰退しているところが多い。

【保護対策】現生育地の環境を良好に維持することが望ましい。旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な湿地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：417 / 千植誌 1975：462 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千葉生物誌 48(1)：6-22 / 千植誌 2003：859,850

【写真】1990.8.28 茂原市 谷城勝弘 線画

(谷城勝弘)



B ヒメホタルイ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Schoenoplectiella lineolata (Franch. et Sav.) J.Jung et H.K.Choi

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。根茎は細長くはい、小穂は細長く鋭頭で1個。風媒で、水散布。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】県内の多数地点に記録されるが、ホタルイ (*S. hotarui* Holub) やイヌホタルイ (*S. juncooides* Palla) の小型個体を誤同定したものが多い。印旛沼周辺と九十九里平野南部で確認される。湿地の放置、水田地帯での農業の多用により激減したと考えられる。

【保護対策】生育可能な環境を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 418 / 新千植誌 1975: 463 / 千植誌 2003: 882,875

【写真】2009.9.23 成田市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B タイワンヤマイ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Schoenoplectus wallichii (Nees) T.Koyama

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂は狭い卵形、鱗片の中肋は緑色。柱頭2。果実の長さ2mm、刺針4本。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】県内では初め栄町で確認され(1988.9.25 CBM B5-133803)、その後県北部の主に休耕田に点在することが知られた。確認地の多くは後の環境の変化や耕耘により消滅し、現存地は極めて少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1993 調査会目録: 254 / 千植誌 2003:882,875

【写真】2008.8.26 大多喜町 谷城勝弘 (谷城勝弘)



B ヒゲアブラガヤ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Scirpus asiaticus Beetle

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。花序は頂生。小穂は球状または広楕円形。風媒で、風散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】茂原市、長生村、大網白里市、横芝光町などの九十九里浜平野域の他、成田市、柏市にも記録される。茂原市から長生村の湿地には複数の多産箇所があるが、近年の宅地造成に伴う土地の改変で失われる所が多い。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千葉植誌 1958：417 / T, Koyama 1958 Taxonomic Study of the Genus *Scirpus* Linne. J. of the Faculty of Science University of Tokyo XII (4-6)：271-366 / 谷城・細川・伊藤・小野沢・山田・野口・久保田 (1996) 乾草沼。千葉県自然環境保全学術調査報告書：11-101 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千生誌 48(1)：6-22 /

千植誌 2003：884

【写真】2005.7.23

茂原市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B コマツカサスキ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Scirpus fuirenoides Maxim.

【種の特性】多年生草本。湿地性葉は単葉で互生。マツカサスキに似るが、小穂塊の数が少なく、鱗片は卵形で幅1～1.3 mmあり、頂花序は1回分岐するのみである。。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内に複数の記録があるが、小型のマツカサスキ *S. mitsukurianus* Makino を誤同定したものが含まれる。確認し得た標本は次のものである。八街市 (1932.9.26 CBM BS-1031)、山武市 (1933.8.19 CBM BS-1335)、成田市 (1950.7.23 CBM BS-5590)、市原市 (1991.10.18 CBM BS-33694)、成田市 (1992.8.8 CBM-BS 190199)。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：418 / 千植誌 1975：462 /

千植誌 2003：884,885 / 千植写集 2005：371

【写真】1989.9.23 八街市 谷城勝弘 標本

(谷城勝弘)



B アイバソウ カヤツリグサ科

2009	
2017	C
2023	B

Scirpus wichurae Maxim.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉。アブラガヤ form. *concolor* (Maxim.) T. Koyama に似るが、小穂は柄の先に単生する。風媒で、水散布。山地性要素。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県北の台地や丘陵地の斜面下の小湿地等に点在する。柄の先に小穂が2～3個集着するアブラガヤと混生することはない。

【保護対策】斜面下方の湿地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：884,885

【写真】2007.8.26 君津市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B カガシラ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	B

Scleria caricina (R.Br.) Benth.

【種の特性】小型の一年生草本。湿地性。日当たりの良い裸出した地表に生える。葉は単葉で互生。風媒で、水散布。ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。[Th]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・琉球。台湾、熱帯アジア。

【県内の状況】九十九里平野の湿地を中心に多産したと推測されるが、開発と圃場整備に伴う環境の改変で生育の適地となる湿地が急減した。現在では少数個体が確認されるにすぎない。

【保護対策】生育地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。湿地群落の遷移の進行を抑えるために刈り取りなどの管理を継続することが望ましい。

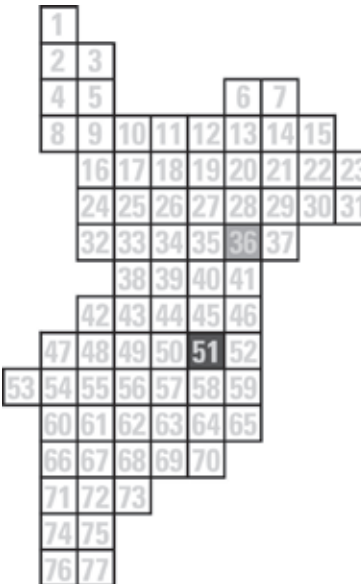
【文献】千植誌

1958：415／新千植誌 1975：463／千植誌 2003：856,898

【写真】2003.9.19 山武市

谷城勝弘

(谷城勝弘)



B コシンジュガヤ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Scleria parvula Steud.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。葉鞘は翼がある。果実には網状隆起がある。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】九十九里平野のほか県北の低湿地に複数の記録がある。本種の生育地の多くが環境の変化と土地の改変によって失われた。

【保護対策】1990年代までは多古光湿原、横芝光町に多産箇所があった。旧生育地には埋土種子が残っているので生育可能な環境を創出することが望ましい。表土の攪乱や大型草本の刈り取りを行うことが発芽を促す有効な手法であろう。

【文献】千植誌 1958：418／新千植誌 1975：463／千植誌 2003：857／千植写真 2005：371

【写真】2005.7.23 長生村 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B イヌノヒゲ ホシクサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Eriocaulon miquelianum Körn.

【種の特性】湿地に生える一年性草本。葉の中部幅は2～3mm。花茎は葉より著しく長い。総苞片は披針形で外片は頭花の2～3倍長い。花苞の上縁に2細胞からなる短毛がある。[Th]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】県内に複数の記録があるが、ニッポンイヌノヒゲやイトイヌノヒゲを誤同定したものが多く含まれる。古くは茂原市での標本がある(1957.9.29, CBM BS-8459)。近年、香取市で記録された標本(2000.9.23 CBM

BS-175533)は、本種に酷似するが萼が黒色を帯びるイヌノヒゲモドキ *E. sekimotoi* Honda の可能性がある。

【保護対策】生育地を良好な環境に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：711

【写真】2011.9.23 銚子市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B クロホシクサ ホシクサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Eriocaulon parvum Körn.

【種の特性】 小型の一年生草本。湿地性。(湿地、休耕田)。葉は単葉で束生。虫媒で水散布。頭花は帯黒色。萼は2浅裂。雌花の花弁の内面に長毛がある。花床は無毛。子房室数と柱頭数は2と3を混生。[Th] ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】 茂原市、長生村、山武市など九十九里平野での生育地の記録と標本がある。茂原市には群生地があった。群生箇所では主としてコモウセンゴケ、ヒメナエ、アイナエ、ヒメイヌノハナヒゲ、アブラガヤ、ヒゲアブラガヤなどと混生している。宅地化の進行にともなう、生育地の多くが造成や盛り土によって消滅している。

【保護対策】 生育地の環境を維持することが望ましい。また、旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことが重要である。

【文献】 千植誌 1958: 407 / 新千植誌 1975: 453 / 谷城 勝弘 1998 クロホシクサ, 生物分科会だより 56. 千葉県高等学校教育研究会 理科部会 1 / 千植誌 2003: 711,700 / 千植写真 2005: 219

【写真】 2007.9.23 茂原市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ドロイ イグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Juncus gracillimus (Buchenau) V.I.Krecz. & Gontsch.

【種の特性】 多年生草本。水中や湿地の泥中に生える。葉は鱗片状で互生。風媒で水散布。花被片は果実より短く、先端は尖らない。[HH] ドロイ群集。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国、シベリア東部。

【県内の状況】 江戸川放水路では割合多く見られ、ほかには九十九里浜平野の木戸川や山武市に生育する。

【保護対策】 河川氾濫原の自然植生を保全することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003: 705, 696

【写真】 2001.7.8 市川市 標本: CBM BS-189462

(木村陽子)



B セトガヤ イネ科

2009	B
2017	A
2023	B

Alopecurus japonicus Steud.

【種の特性】一年草生草本。春耕前の水田に多い。稈高は 20 ～ 60 cm。葉は白緑色。スズメノテッポウよりやや大形。苞穎は同長で、長さ約 5mm。葯は白色で芒の長さ 10 ～ 12 mm と長く目立つ。花期は 4 ～ 5 月。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。中国南部。

【県内の状況】いすみ市、南房総市、鴨川市、四街道市、君津市、館山市（2008）。スズメノテッポウと誤認されている可能性もある。千葉県は本種の分布の東限に当たるせいなのか稀。

【保護対策】生育地の湿地や水田の保全。田の耕起を行う。

【文献】千植誌 2003：742, 735

【写真】2008.4.13
館山市 大場達之
(木村陽子)



B ヒメタイヌビエ イネ科

2009	
2017	B
2023	B

Echinochloa crus-galli (L.) P.Beauv. var. *formosensis* Ohwi

【種の特性】中型の一年草生草本。高さ 40 ～ 50cm。茎は直立する。葉は線形で、幅 5 ～ 8 mm。タイヌビエに比べて小さい。小穂の長さは 3 mm、小穂の第一包穎は、半分ほどの長さ、毛は少ない。風媒で、重力散布。水田に生育する。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。中国、東南アジア、インド。

【県内の状況】野田市で 1998 年 10 月 7 日に採集された標本（CBM BS-142429）と市原市で 1991 年 8 月 2 日に採集された標本（CBM BS-304597）と長南町で 1960 年に採集された標本（CBM BS-143458）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003:767 / 増補日本イネ科植物図譜 1996 574

【写真】1998.10.7 野田市 標本：CBM BS-142429

(天野誠)

